

爲シ其處分ノ取捨ハ一ニ檢事ニ任スルノ意義ヲ顯ハシタルニ過キ  
ス

○第七十八號 保釋責付ノ制度ヲ設ケタル理由如何

保釋トハ未決勾留中ニ在ル被告人ノ請求ニ因リ何時ニテモ出廷ス可  
キ保證ヲ立テシメ假リニ其身体ノ拘束ヲ釋クモノヲ云ヒ責付トハ判  
事カ職權ヲ以テ未決拘留中ノ被告人ニ對シ其拘束ヲ釋キ之ヲ其親戚  
故舊ニ預クルヲ云フ今此制度ヲ設ケタル理由ヲ案スルニ蓋シ未決拘  
留ノ制度ハ之ヲ純理上ヨリ觀察セハ吾人ノ天賦人權ヲ戕害シ不理不  
當ナルヲ勿論ナルモ犯罪事實ヲ得且刑ノ執行ヲ確實チラシムル爲メ  
必要止ムヲ得サルニ出テ此制ヲ設ケタルナリ未決勾留ノ制度ハ此ノ  
如ク必要ニ迫ラレ純理ヲ犯シテ設ケタルモノナレハ其拘束期間ハ可  
成之ヲ短縮センヲ務メサル可カラズ保釋責付ノ制度モ亦未決勾留

時間ノ短縮ヲ期スルニ外ナラス即事件ノ模様ニ依リ罪證湮滅ノ恐レ  
ナキ者ニ對シテハ逃亡ヲ防ク爲メ保證ヲ徵シテ保釋ヲ許シ罪證湮滅  
逃亡ノ憂共ニ無キモノニ對シテハ責付ヲ許セリ

○第七十九號 保釋責付ヲ許スニ要スル條件如何

左ノ條件具備スルキハ豫審判事ハ保釋ヲ許スコトヲ得(二五乃至二五二、二五三乃  
至二五五)

第一 保釋ノ請求アリタルコト

保釋ノ請求ハ被告人自ラ爲スヲ常トスレモ被告人若シ無能力者ナ  
ルキハ法律上代理人ヨリ請求ヲ爲スコトヲ得

第二 保證ヲ立テシムルコト

保證ハ被告人又ハ法律上代理人ヨリ金錢若クハ有價證券ヲ差出シ  
又ハ裁判所ノ管轄地内ニ住シ且十分ナル資力アル者保證書ヲ差出



シテ之ヲ立ツル者トス此保證ヲ立テシムルハ被告人ノ出廷ヲ確實ナラシムル主旨ナレハ若被告人呼出ノ通知ヲ受ケ正當ノ事由無クシテ出廷セサルキハ其保證金ノ全部又ハ一部ヲ沒收ス然レモ被告人免訴ノ言渡違警罪又ハ罰金ノ刑ニ該ル可キ輕罪ニ付公判ニ付スル言渡ヲ爲シタルキハ先ニ沒收シタル保證金ハ還付ス可キナリ保證ハ被告人ノ出廷ヲ確實ナラシムルモノナレハ其必要ノ消滅シタル場合ハ之ヲ還付セサル可カラス即違警罪又ハ罰金ニ該ル可キ輕罪ニ付公判ニ付スル言渡ヲ爲シタルキ又ハ保釋ヲ取消シ再ヒ被告人ヲ勾束シタル場合等是ナリ

第三 何時ニテモ呼出ニ應シ出廷ス可キ證書ヲ差出サシムルコト

是亦被告人ノ出廷ヲ確實ナラシムル主旨ニ出ツルナリ

第四 檢事ノ意見ヲ聞クコト

保釋ヲ許スハ事稍重大ニ屬スルヲ以テ豫審判事ハ檢事ノ意見ヲ聞キ之ヲ參照シテ以テ許否ヲ決定ス可キナリ

責付ハ豫審判事カ責付スルモ害ナシト思料シタルキ保釋ノ請求アリタルト否トニ拘ハラズ許ス可キモノナレハ唯左ノ二個ノ條件ヲ要スルノミ(二五)

第一 檢事ノ意見ヲ聞クコト

第二 親戚又ハ故舊ヨリ何時ニテモ呼出ニ應シ被告人ヲ出廷セシム可キ證書ヲ差出サシムルコト 此証書ハ法律上何等ノ效果ナキモノナレモ道義上幾分カ被告人ノ精神ヲ羈束シ出廷ヲ確實ナラシムルナリ

○第八十號 保釋責付ヲ取消ス可キ場合如何(二五、二六、二六)

保釋責付ヲ取消ス可キ場合ハ左ノ如シ



第一 被告人正當ノ理由ナク出廷セサルハ此場合ハ保證金ノ全部又ハ幾分ヲ沒收シ保釋ヲ取消サル可カラス

第二 豫審判事カ保釋ヲ取消必要アリトスルハ

第三 本案事件ヲ重罪トシテ公判ニ移ス場合

茲ニ保釋責付ノ取消ニ非スシテ消滅トモ稱ス可キ場合アリ开ハ豫審中保釋又ハ責付ヲ許サレタル後輕罪公判ニ移サレ有罪ノ判決ヲ受ケタル場合はレナリ此場合ハ犯罪確定シ刑ノ執行ヲ受ケサルヲ得サルニ因リ保釋責付ハ當然消滅スルモノトス此場合モ亦第百五十八條ト同ク曩ニ立テシメタル保證ハ之ヲ還付セサル可カラサルモノト信ス

○第八十一號 豫審判事カ豫審終結決定前ニ爲スヲ要スル手

續如何(二六、二七)

豫審判事カ各般ノ證據徵憑ノ取調ヲ終リ被告事件自己ノ管轄ニ屬セ

サルモノト思料シタルハ又ハ他ニ取調ヲ要スル事項無シト思料シタルハ檢事へ訴訟記録ヲ送致シ豫審終結ノ處分ニ付意見ヲ聞クヲ要ス是レ豫審終結ハ或ハ被告人ヲ無罪トシテ免訴ノ言渡ヲ爲スカ或ハ有罪トシテ公判ニ移スカノ處分ノ岐カルト處ニシテ刑事訴訟手續中殊ニ重要ノ處分ニ屬スレハ必ス檢事ノ意見ヲ聞キタル上決定ヲ爲スヲ要スルナリ

豫審終結ニ付意見ヲ求ラレタル檢事ハ三日内ニ意見ヲ付シ訴訟記録ヲ豫審判事ニ還付セサル可カラス而シテ其意見ハ被告事件ハ管轄違ナルト免訴スヘキモノナルト重輕罪公判又ハ區裁判所ニ移ス可キ者ナルト三者ニ過サル可シト雖モ若豫審ノ取調十分ナラスト思料シタルハ取調ヲ要ス可キ條件ヲ明示シテ之カ取調ヲ請求スルヲ得右請求ヲ受ケタル豫審判事ハ其請求ヲ正當トスルハ之ヲ取調ヘタ



ル後更ニ意見ヲ求ム可キモ不當トスルハ之カ取調ヲ爲サスシテ更ニ訴訟記録ヲ檢事ニ送致シ意見ヲ求ム可キナリ  
再度ノ意見ヲ求メラレタル檢事ハ最早ヤ取調ノ請求ヲ爲スト能ハサルニ依リ二十四時内ニ意見ヲ付シテ訴訟記録ヲ豫審判事へ返還セサル可カラズ蓋シ檢事カ此場合ニ付スル意見ハ豫審ノ取調十分ナラサルニ付意見ヲ付スルコトヲ得ストノ意見ヲ以テスルコトアル可シ

○第八十二號 豫審終結ハ如何ナル場合ニ如何ナル決定ヲ爲ス可キ乎

豫審終結決定ハ左ノ四種ニ外ナラス

- 第一 管轄違ノ決定
- 第二 免訴ノ決定
- 第三 區裁判所ニ移スノ決定

第四 公判ニ移スノ決定

以下右各場合ニ就キ細述ス可シ

第一 管轄違ノ決定(二箇)

管轄違ノ決定ヲ爲スハ土地ニ就テノ管轄違ナルキ(被告事件ヲ受理シタル裁判所管轄地内ニ起リタル犯罪ニ非ラス又被告人其管轄地内ニ在住セサルキ)犯罪ノ性質ニ就テノ管轄違ナルキ(軍法會議ニ於テ審判ス可キ事件ヲ受理シタルキ)又ハ大審院ノ特別權限ニ屬ス可キ事件ナルキ(刑法第二論第一章及ヒ第二章ニ掲ケタル重罪並ニ皇族ノ犯シタル罪ニシテ禁錮又ハ更ニ重キ刑ニ處ス可キ犯罪)ナリトス

茲ニ注意ス可キハ豫審ハ元來地方裁判所ノ管轄ニ屬ス可キ事件ニ就キ爲ス可キモノナレハ區裁判所ニ屬スル事件ニ就テハ檢事ハ豫審ヲ求ムルコト無シト雖モ審理中區裁判所ニ屬ス可キ事件ナルコトヲ發見ス



ル場合少シトセス此場合ニ於テハ管轄違ヒノ言渡ヲ爲サスシテ直ニ  
區裁判所ニ移スノ言渡ヲ爲ス

管轄違ノ言渡ヲ爲スニハ唯自己ノ管轄ニ屬セサル旨ヲ事實及法律ノ  
理由ヲ付シテ言渡スモノニシテ管轄裁判所ヲ指定スルヲ無シ故ニ檢  
事ニ於テ其決定確定シタルハ第六十四條ニ從ヒ之ヲ其管轄ト思料  
スル裁判所ノ檢事ニ送致ス可キモノトス

又管轄違ノ言渡ヲ爲ス場合ニ被告人ヲ勾留スル必要アリト思料スル  
ハ前ニ發シタル令狀ヲ存シ又ハ新ニ令狀ヲ發ス可キ者トス是公益  
上特ニ管轄ニアラサル豫審判事ニ許與シタル職權ナリト知ル可キ也  
第二 免訴ノ言渡(二查)

免訴ノ決定ハ左ノ場合ニ之ヲ爲スモノトス

(一) 犯罪ノ證據十分ナラサルハ 取調ヘタル總テノ證據ニ依リ確實

ナル有罪ノ心證ヲ得ルニ足ラサルハ被告人ヲ目シテ有罪者トス  
可カラサルヲ以テ之ニ對シ免訴ノ言渡ヲ爲サ、ル可カラス

(二) 被告事件罪ト爲ラサルハ 法律規則ニ於テ罰スヘキ明文ナキ所  
爲ハ如何ニ兇惡ナル所爲タリ死罪ト爲ラサルヲ以テ免訴ス可キ之

(三) 公訴ノ時効ニ係リタルハ

(四) 確定判決ヲ經タルハ

(五) 大赦アリタルハ

右三個ノ場合モ公訴權消滅ノ原因ナレハ其原因ノ一アルハ元來  
公訴ヲ提起ス可ラサルヲ以テ免訴ノ言渡ヲ爲サ、ル可ラサル之

(六) 法律ニ於テ其罪ヲ全免スルハ

其罪ヲ全免スルハトハ或原因ノ爲メ法律カ被告人ニ刑ヲ當行スル  
ヲ全免スル場合ヲ云フ例ハ誣告罪ニ就キ被告人推問前ニ自首シ



タル者ニ對シ其刑ヲ全免スルカ如シ此場合ニ免訴ノ言渡ヲ爲スハ蓋シ公訴ハ元來犯罪ヲ證明シ刑ヲ適用スルヲ目的トスルモノナレハ刑ヲ全免スルキハ到底此目的ヲ達スルヲ能ハサレハナリ

(七) 告訴ヲ待テ受理ス可キ事件ニ付告訴ノアテサルニ公訴ヲ受理シ又ハ告訴アリタルモ豫審中告訴ノ拋棄アリタルキ

親告罪ニ就キ告訴ノ拋棄ハ公訴權消滅ノ原因(第六條)中ニ列記スルモ豫審免訴ノ原因中ニ列記セサルヲ以テ告訴ノ拋棄ニ因リ公訴權消滅ノ效アルハ公訴提起前ナラサル可カラス已ニ公訴提起アリタル後ハ最早公訴權消滅ノ效力ナシト論スルモノアルモ公訴權消滅ノ原因ヲ列記シタル第六條ニ於テ告訴ノ拋棄ヲ公訴權消滅ノ原因ト爲シ敢テ公訴提起ノ前後ヲ區別セサルヲ見レハ論者ノ說採ルニ足ラサルナリ蓋シ第六十五條ハ唯免訴ヲ爲ス可キ手續ヲ規定シ

タルニ過キサレハ之ニ列記セサレハトテ公訴權消滅ノ原因タラスト論スルヲ得ス

(八) 犯罪ノ後頒布シタル法律ニ因リ其刑ヲ廢シタルキ 是亦公訴權消滅ノ原因中ニ列記シテ第六十五條中ニ列記セサレハ當然免訴ノ言渡ヲ爲ス可キナリ此場合ハ巨細ニ論スルキハ被告事件罪トナラサル場合ニ包含シタルモノト云フ可シ

右ノ外被告人死去ノ場合モ公訴權消滅ニ歸シ從テ其訴訟ヲ繼續ス可カラスト雖モ被告人既ニ死去スル上ハ殊ニ言渡ヲ爲スヲ要セスシテ其公訴ハ當然終局ニ至ルナリ

免訴ノ言渡ヲ爲スニハ事實及法律ニ因リ其理由ヲ明示セサル可カラス例ヘハ公訴受理ス可カラサルキハ其原由タル事實即時效ニ罹リタルヲ確定判決ヲ經タルヲ等ヲ明示シ且法律カ之ヲ以テ公訴受理ス可



カラスト爲ス法律ノ條文ヲ引證ス可キナリ

第三 區裁判所ニ移ス決定(二六、二七)

豫審判事ハ被告事件區裁判所ノ管轄ニ屬ス可キモノト思料シタルキハ管轄違ノ言渡ヲ爲スコト無ク直ニ區裁判所ニ移ス言渡ヲ爲スコトヲ要ス而シテ被告事件違警罪ナルカ又ハ單ニ罰金ノ刑ニ該ル可キ輕罪ナリト思料シタルキハ被告入勾留中ナルキハ必ス釋放ノ言渡ヲ爲サ、ル可カラス若シ禁錮ノ刑ニ該ル可キ輕罪ナリト思料シタルキハ豫審判事ノ見込ヲ以テ保釋ヲ許シ又ハ責付ヲ爲スコトヲ得又未タ勾留ヲ受ケサリシキハ勾留狀ヲ發スルコトヲ得

第四 公判ニ移ス決定(二八乃至三〇)

(一) 重罪公判ニ移ス決定 被告事件重罪ナリト思料シタルキハ重罪公判ニ移ス決定ヲ爲サ、ル可カラズ此場合ハ必被告入ヲ勾留スル

コトヲ要スルヲ以テ羈ニ保釋ヲ許シ又ハ責付ヲ爲シアリタルキハ之ヲ取消シ被告人未タ勾留ヲ受サルキハ勾留狀ヲ發セサル可カラズ

(二) 輕罪公判ニ移ス決定 地方裁判所ノ管轄ニ屬スル輕罪ナリト思料シタルキハ輕罪公判ニ移ス決定ヲ爲ス而シテ被告事件單ニ罰金ノ刑ニ該ル可キ輕罪ト思料シタルキハ被告人ノ勾留ヲ釋キ禁錮ノ刑ニ該ル可キ輕罪ト思料シタルキハ豫審判事ノ見込ヲ以テ被告人ヲ繫留スルト否トヲ決スルコト前ノ區裁判所ニ移ス決定ト同一ナリ

第三第四ノ決定ヲ爲スニモ亦事實及法律ニ因リ其理由ヲ明示スルコトヲ要ス即犯罪ノ性質(竊盜タリ詐欺取財タル等ノ事實)模様(加重減輕ノ理由ト爲ルヘキモノ)證憑ノ十分ナルコト及其罪ヲ罰ス可キ法律ノ正條ヲ明示スルコトヲ要ス

○第八十三號 豫審終結決定ニ對スル上訴ノ方法如何(三三)



豫審終結決定ハ唯豫審判事カ自ラ蒐集シタル證憑ニ依リ已ノ假信ヲ以テ免訴ノ決定公判ニ移スノ決定管轄違ノ決定等ヲ爲スモノニシテ公判ニ於ケル判決ノ如ク直ニ罪ノ有無ヲ斷定スルモノニ非スト雖モ其處分ハ亦被告人及國家ノ利害ニ關スル大ナルモノナレハ檢事及被告人ハ其決定ニ對シ抗告ノ方法ヲ以テ上訴ヲ爲スコトヲ許セリ然レモ是等ノ者ハ如何ナル決定ニ對シテモ常ニ抗告ヲ爲スコトヲ得ルモノニ非ラス請フ左ニ之ヲ説明セン

檢事カ抗告ヲ爲シ得ルハ重罪公判ニ付スル決定免訴若ハ管轄違ノ決定ニ對スル場合ナリトス蓋重罪公判ニ付スル決定ハ被告人ノ利益ヲ害スル甚シケレハ被告人ノ利益保護ノ爲メ抗告ヲ許シ免訴ノ決定ノ當否ハ國家ノ利害ニ關スル尤モ大ナレハ公益保護ノ爲メ抗告ヲ許スナリ又管轄違ノ決定ハ或ハ被告人ノ利益ヲ害スルコトアリ或國家ノ利

害ニ影響スル大ナルコトアルヲ以テ亦公益保護ノ爲抗告ヲ許スナリ被告人カ抗告ヲ爲スコトヲ得ルハ唯重罪公判ニ移ス決定ニ對スル場合ノミトス是レ重罪公判ニ移ス決定ハ被告人ニ不利益ヲ與フル尤モ大ナレハ之ニ對シ抗告ヲ許スナリ

輕罪公判ニ移ス決定區裁判所ニ移ス決定ハ被告人及國家ノ利害ニ影響スル前者ノ如ク甚シカラサレハ之ニ對シ抗告ヲ許シ豫審ノ終局ヲ長カラシムルヲ欲セサルナリ若シ其決定ヲ不當ナリトセハ公判ニ於テ十分ノ辯護ヲ爲スノ途アルヲ以テ抗告ヲ許サ、ルモ其權利ノ保護至レリト爲スナリ

舊治罪法ニ於テハ民事原告人ニ豫審終結決定ニ對シ上訴(會議局へ故障)ヲ爲スコトヲ許シタルモ本法ニ於テ之ヲ廢止シタルハ實ニ肯綮ヲ得タルモノト云フ可シ蓋シ豫審ハ犯罪ノ有無ヲ調査スル爲メ各般ノ證



憑ヲ蒐集スルモノニシテ敢テ民事ノ證憑ニ關スルヲ無シ公判ニ於テ民事原告人ニ豫審ノ證憑ヲ援用スルヲ許スハ同一ノ證憑ニ依リ交々相證明スルヲ得ルヲ以テ民事原告人ニ於テ偶々其利益ヲ受クルモノト云フ可キノミ

○第八十四號 豫審免訴ノ決定ノ效力如何(二五)

豫審ノ決定ハ總テ受理シタル事件ニ對シ確定ノ判決ヲ與フルニ非スシテ豫審判事カ蒐集シタル證憑ノミニ依據シ假リニ爲ス處分ナリトス故ニ其效力ハ假リノモノニシテ完全ナル確定力ヲ有セサルヲ以テ通例トスサレハ豫審判事カ重罪トシテ重罪公判ニ移スモ公判裁判所ニ於テハ輕罪トシテ判決スルヲ得又豫審判事カ輕罪トシテ輕罪公判ニ移スモ公判裁判所ニ於テハ重罪トシテ判決スルヲ得可キナリ免訴ノ決定ニ於テモ亦同一ナレハ之ニ因リテ公訴權ヲ消滅セシムル

完全ナル效力ヲ有セス唯豫審判事カ現ニ蒐集シタル證憑ノミニ對シ效力ヲ有シ該證憑ノミニテハ他日再ヒ公訴ヲ受クルヲ無キノミナレハ豫審判事カ先ニ發見スル能ハサリシ新ナル證憑ヲ發見スルキハ檢事ハ再ヒ公訴ヲ提起スルヲ得ルモノトス

然レ免訴ノ決定ノ理由カ證憑ノ如何ニ關係セサルキハ其免訴ノ決定ハ完全ナル確定力ヲ有スルモノトス例ヘハ確定判決又ハ大赦ヲ理由トシテ免訴シタル後確定判決又ハ大赦アリタルハ免訴シタル事件ニアラスシテ他ノ事件ナリシ時ノ如キ如何ニ新ナル證憑ヲ發見スルモ其事件ノ事實ハ毫モ變更ヲ受クルヲ無ク唯豫審判事ノ誤謬ヲ證明スルノミナレハ新ナル證憑現出スルモ再ヒ公訴ヲ提起スルヲ得ス要スルニ免訴ノ決定ハ假リノ效力ヲ有スルノミニシテ完全ナル確定力ヲ有セサレハ新ナル證憑ノ顯出ニ因リ再ヒ公訴ヲ提起スルヲ得



然レモ其免訴ノ理由カ新ナル證憑ノ顯出ニ因リ毫モ事實ヲ變更セサル場合ニハ完全ナル確定カヲ有スルモノナリ

第四編 公判ノ部

○第八十五號 公判ノ性質ヲ説明セヨ

公判ハ豫審ト其性質ヲ異ニシ豫審ニ於ケルカ如ク單ニ證憑ノ調査ヲ爲シ公判ニ付ス可キ乎免訴ノ言渡ヲ爲ス可キ乎將タ管轄違ノ言渡ヲ爲ス可キ乎ヲ決定スルニ止マラス犯罪事實ノ有無犯罪ノ成立不成立被告人責任ノ程度等ヲ精密調査シ果シテ犯罪事實アリ被告人ニ責任アリトスルキハ其責任ノ程度ヲ考量シ以テ之ニ平衡スル刑罰ヲ當行スルモノニシテ其之ヲ爲スハ檢事カ舉示スル各般ノ證憑被告人カ提供スル各種ノ反證ヲ審査シ猶双方ノ辯論ヲ聽キ以テ得タル所ノ心證ニ據ル可キナリ故ニ公判ノ本然ノ性質ハ檢事及被告人カ舉示シタル

攻撃辯護ノ方法ニ基キ裁判ヲ爲スニ在リ然リト雖モ刑事裁判ノ當否ハ一國ノ公益ニ關スル尤モ大ナルモノナレハ若シ檢事及被告人ノ舉示シタル證憑ノミニ基キ確信ヲ得ル能ハストスルキハ職權ヲ以テ各般ノ證憑ヲ調査セサル可カラス是レ刑事ノ審査ト民事ノ審査ト差異アル所ナリ

審判ヲ公行スル理由如何

審判公行ノ原則ハ(或ル場合ニ傍聽禁止ノ決定ヲ爲スコアリ)裁判所構成法ニ定ムル所ニシテ其立法ノ理由ハ之ヲ公行セサルキハ人其事情ヲ詳ニセス揣摩端睨其間ニ狐疑ヲ挾ムハ蓋シ常態ノ免レサル所ナルノミナラス之ヲ密行スルキハ公衆ノ監視ナキヲ以テ時ニ或ハ所司ノ曲斷ヲ免レサルナリ是レ審判公行ノ制アル所以ナリ

○第八十六號 公判ノ規定中被告人辯護ノ爲メ設ケタル規定ヲ

示シ其理由ヲ説明セヨ



辯護權ハ被告人カ有スル天賦ノ權利ナリ凡ソ他人ヨリ攻撃ヲ受クル者ハ其攻撃ノ身体ナルト名譽ナルト財産ナルトヲ問ハス反撃防禦ヲ爲シ得ルハ吾人カ天然ニ享有スル權利ニシテ敢テ他ヨリ侵奪ヲ受ク可キモノニ非ス是レ即辯護權ナリトス然リ而シテ刑事ノ辯護權ハ唯獨リ被告人ニ屬スルノミナラス國家カ刑罰權ヲ有スルト同一理由ニ因リ國家モ亦其辯護權ノ一部ヲ有スルモノト云ハサル可カラス蓋シ刑罰權ノ目的ハ社會ノ秩序ヲ紊亂スル者ニ對シ刑罰ヲ當行シ以テ社會ノ安寧ヲ維持スルニ在リ然ルニ今無罪者ヲ捕ヘテ之ニ刑罰ヲ當行セハ如何社會ノ秩序ヲ紊亂スルコト犯法者ヲシテ法網ヲ脱セシムルヨリ寧ロ甚シキモノアリト云ハサル可カラス復言セハ刑罰權ノ目的ヲ達セサルモ辯護權ヲ屈辱スルモ共ニ社會ノ秩序ヲ紊亂スルモノナリト雖モ後者ヲ以テ最モ甚シキモノト爲ス故ニ法律ハ被告人ノ辯護權ノ

行用ヲ全カラシムルニ憚々焉トシテ勗メテ尙及ハサランコトヲ愧ル、モノ、如シ今其辯護權ニ關スル重ナル規定ヲ舉クレハ左ノ如シ

(一) 審判公行ノ制 審判公行ノ制定ハ枉斷屈辱ノ弊ヲ芟除シ公衆ノ信用ヲ維持スルニ最モ必要ナルコト敢テ多言ヲ要シテ後之ヲ知ラサルナリ(憲法第五十九條及第七十六條)

(二) 被告人ノ出廷 被告人カ被リタル嫌疑ヲ辯解シ冤枉ヲ雪カンニハ被告人自ラ出廷シテ具サニ分疏セサレハ能ク其全キヲ盡スコト能ハス故ニ法律ハ呼出狀ヲ發シ被告人ニ出廷ヲ命シ又禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ被告事件ナルキハ勾引狀ヲ發シテ強テ出頭ヲ命ス若シ被告人精神錯亂又ハ疾病ニ因リ出頭スルコト能ハサルキハ痊癒ニ至ル迄辯論ヲ停止シ又辯論中疾病ニ係リ又ハ精神錯亂シタルキモ辯論ヲ停止シ痊癒ヲ待テ後新ニ辯論ヲ開キ又ハ前ノ辯論ヲ繼續ス可



キモノトス但罰金以下ノ刑ニ該ル事件ニ付代人ヲ差出シタルキハ此限ニ非ス是皆被告人ヲシテ自ラ出廷セシメ以テ辯解ヲ爲サシムル旨趣ニ外ナラス

被告人出廷スルモ辯論ヲ肯セサルキ及審問ヲ妨ケ又ハ不當ノ行狀ヲ爲シ裁判長ヨリ退廷又ハ勾留ヲ命セラレタルキハ被告人ハ法律カ盡シタル辯護ノ方法ヲ行用スルヲ肯カハサルモノニシテ最早ヤ辯護ノ道ヲ盡サシムルニ由ナキモノナレハ其辯論ヲ聞カスシテ對席トシテ裁判ヲ爲ス但後ノ場合(退廷又ハ勾留ヲ命セラレタルキ)ニ其辯論二日以上ニ涉ルキハ更ニ被告人ヲ出頭セシメ以テ辯論ヲ爲サシム(三三、三二、二八)

(三) 辯護ノ準備 被告人ニ對シ發スル呼出狀ニハ必ス被告事件ヲ記載シ豫メ何事件ノ爲メ出廷ヲ命セラレタルカヲ知ラシメ其辯護ノ用意ヲ爲サシムルモノトス故ニ若シ呼出狀ニ被告事件ノ記載ナキ場合ニ於テ被告人未タ其事件ニ付取調ヲ受ケサルキハ辯護準備ノ爲メ二日ノ猶豫ヲ求ムルコトヲ得又其呼出狀ノ送達ト出廷トノ間少クモ二日ノ猶豫アルコトヲ要ス是亦辯護準備ノ爲メニスル猶豫ナリトス(三四、三五)

(四) 辯護人ノ添付 被告人ハ辯論ノ爲メ辯護人ヲ用ユルコトヲ得而モ辯護人ハ裁判所々屬ノ辯護士中ヨリ選任スルヲ通例トスルモ裁判所ノ允許ヲ得ルキハ辯護士ニ非サル者ト雖モ辯護人ニ選任スルコトヲ得蓋シ事實上法律上ノ辯論ハ學識ト經驗ニ富ミタル者ニアラスンハ能ク其蘊奧ヲ盡スコト能ハス故ニ法律ハ被告人ニ辯護人ノ添付ヲ許シ以テ其辯護權ノ行用ヲ全カラシム殊ニ重罪事件ニ付テハ被告人自ラ辯護人ヲ選定セサルキハ裁判長ノ職權ヲ以テ其裁判所々



屬ノ辯護士中ヨリ之ヲ選任セサル可カラス(二五)

被告人ハ  
訴訟記録  
ノ閲覧  
寫ス  
權ナキ乎

(五) 訴訟記録ノ閱讀謄寫 訴訟記録ノ閱讀謄寫ハ辯論ノ爲メ必要ナル事項ナリ故ニ被告人ハ勿論辯護人ト雖モ之ヲ閱讀謄寫スルヲ得然ルニ法文ニハ辯護人ニ訴訟記録ノ閱讀謄寫ヲ許スヲ明示スルモ被告人ニ之ヲ許スヲ明示セサルヲ以テ辯護人ニ非サレハ閱讀謄寫スルヲ得スト論スル者アルモ(法曹會決議)被告人ニ閱讀謄寫ヲ許ス必要ハ辯護人ヨリハ一層切實ナリト云フヲ得可キモ彼ニ許シ之ニ禁スル道理決テアル可カラサルナリ又辯護人ハ被告人ノ有スル辯護權ヲ被告人ニ代リ行用スルニ過キサレハ被告人ヨリ過大ノ辯護權アリトスルヲ得ス(二六)

(六) 最終ノ發言 被告人又ハ辯護人ヲシテ最終ニ發言セシムルハ事物自然ノ順序ナレトモ特ニ法律カ之ヲ明言シタルハ最終ノ發言ハ其

辯護權ノ重要ナルモノナルヲ以テナリ(三〇)

(七) 公廷ニ於ケル身体ノ自由 被告人ハ公廷ニ於テ身体ノ拘束ヲ受クルヲ無シ蓋シ身体ヲ箝束セラレ動作自由ナラサルキハ繫累ヲ精神ニ及ホシ充分ニ辯護權ヲ行用スル能ハサル可シ是レ此規定アル所以ナリ(二七)

○第八十七號 裁判所ハ訴ヲ受ケサル事件ニ付裁判ヲ爲ス權ナ

キ乎

告ケサレハ理セストハ治罪ノ一大原則ニシテ裁判所ハ訴ヲ受ケサル事件ニ付裁判ス可カラサルヲ意味シタルモノナリ蓋シ國家ハ自ラ訴ヘテ自ラ理スルモノナレハ訴權ヲ行フ者ト之ヲ裁判スル者トハ各獨立セシメ兩々相侵スヲナカラシメサレハ自訴自理ノ弊實ニ陷ラサルヲ得ス則チ訴ヲ起シテ刑ノ適用ヲ請求スルハ檢事專ラ之ヲ司リ訴



ヲ受ケタル事件ヲ審理判決スルハ裁判所専ラ之ヲ司リ互ニ其權限ヲ超過スルヲ許サス、サレハ裁判所ハ訴ヲ受ケサル事件ヲ自ラ進シテ審判スルコトヲ得サルナリ(二八)

裁判所ハ  
訴ヲ受ケ  
サル共犯  
者ヲ審判  
スル權アリ  
乎

裁判所カ訴ヲ受ケサル事件ニ付裁判ス可カラストハ檢事カ指名セサル同一事件ノ共犯者ニ對シテモ制限セラレタルモノナル乎例ヘハ檢事ハ甲者ニ對シ竊盜罪アリトシテ訴追シタル場合ニ裁判所ハ審理中甲者ノ竊盜ハ乙者ノ教唆ニ出ツルモノナルコトヲ發見シタルハ檢事ノ請求ヲ待ツニ非サレハ乙者ノ犯罪ヲ審判スルコト能ハサル乎曰ク不告不理ノ原則ハ裁判所カ公訴ヲ受ケサル事件ニ付キ制限シタルモノニシテ裁判所カ事件ヲ受理シタル上ハ其事件全体ヲ握收スルモノナレハタトヘ檢事カ指示セサルモ其犯罪事件ノ共犯者タル上ハ之ヲ審判スル權ヲ有ス若シ檢事カ指示セサル被告人ヲ審判スルコトヲ得ストセ

ハ裁判所カ公訴ヲ受理スルハ事件ニ付テ爲スニ非スシテ人ニ付テ爲スモノト云ハサル可カラス然ルニ法文ニハ明ニ訴ヲ受ケサル事件ニ付裁判ス可カラストアリテ人ニ付キ公訴ヲ受理スルニアラスシテ事件ニ付キ公訴ヲ受理スルモノナルコトヲ示セリ(法曹會決議並ニ大審院判例ハ之ニ反セリ同記事第二十四號)

不告不理  
ノ原則ニ  
例外アリ  
乎

右ノ不告不理ノ原則ニハ一ノ例外アリ則辯論ニ因リ發見シタル付帶ノ犯罪ニ付テハ檢事ノ起訴ナシト雖モ之ヲ審判スルコトヲ得可キモノトス蓋シ付帶犯罪ハ別個ナル數個ノ犯罪事實ノ脈絡相關連シ一罪ノ審理ハ從テ他ノ一罪ノ事實ヲ明確ナラシムルモノナレハ之ヲ同時ニ審判スルハ容易ニ其事實ヲ明瞭ナラシムルト同時ニ二重ノ手數ヲ省キ費用ト日時ヲ節約シ公私共ニ大ニ便益ヲ受クルヲ以テ付帶犯ノ場合ハ檢事ノ請求ヲ待タス併セテ審判スルコトヲ許セリ



付帶犯トハ如何ナル犯罪ヲ云フカ法律ハ左ノ三個ノ場合ヲ示セリ  
ハ如何ナル犯罪ヲ云フ乎

第一 同一ノ場所ニ於テ同時ニ一人又ハ數人ニテ數罪ヲ犯シタルキ  
例ヘハ一家屋火災ニ罹リ其炎上シテ騷擾ナルニ際シ二人各別ニ竊盜罪ヲ犯シタルカ如シ

第二 數人通謀シテ日時又ハ場所ヲ異ニシ數罪ヲ犯シタルキ 例ヘハ甲乙二人通謀シ内亂ヲ起ス目的ヲ以テ甲ハ甲地ニ於テ乙ハ乙地ニ於テ兵器金穀ヲ掠奪スルカ如シ

第三 自己又ハ他人ノ犯罪ヲ容易ニスル爲メ又ハ其罪ヲ免ル、(罪ノ發覺ヲ免カル、意)爲メ他ノ罪ヲ犯シタルキ 自己又ハ他人ノ犯罪ヲ容易ニスルタメ他ノ罪ヲ犯ストハ例ヘハ竊盜ヲ爲スタメ先ツ夜番人ヲ斬殺スルカ如シ又自己又ハ他人ノ罪ヲ免ル、爲メ他ノ罪ヲ犯ストハ例ヘハ竊盜ヲ爲シタルニ偶々他人ノ爲メニ目撃セラレタ

ルキ其目撃シタル者ヲ斬殺スルカ如シ  
法律ハ以上ノ三個ノ場合ヲ示シタレモ素ヨリ例示ニ過キサレハ此他尙ホ付帶犯中ニ入ルヘキモノナシトセス

○第八十八號 管轄違又ハ公訴受理ス可カラサル申立ヲ爲ス可キ人及其時期如何(二六六)

管轄違又ハ公訴受理ス可カラサル申立ヲ爲シ得ル者ハ檢事及被告人ナリトス然ラハ民事原告人民事擔當人ハ是等ノ申立ヲ爲ス可キ權利ナキ乎法文明ニ檢事及被告人ニ限りタルヲ以テ此以外ノ者ハ之カ申立ヲ爲ス可キ能ハスト決セサル可カラス此理由ヲ案スルニ私訴ハ刑事裁判所ニ其公訴ニ付屬シテ審判ヲ請求スル附隨ノモノナレハ私訴ノ當事者ハ公訴ノ事ニ關シ容喙ス可カラストノ旨趣ニ基キタルナラン舊治罪法ハ管轄違又ハ公訴受理ス可カラサルノ申立ハ民事擔當人ニ



之ヲ許スモ民事原告人ニ之ヲ禁セリ此區別ハ蓋シ允當ナラサル可シ  
 若シ民事擔當人ニ之ヲ許スノ理由アラハ民事原告人ニモ亦之ヲ許サ  
 ル可カラザルノ理由アリト云ハサルヲ得ス  
 或學士ハ刑事訴訟法中民事原告人ニ管轄違又ハ公訴受理ス可カラサ  
 ル申立ヲ爲スコトヲ許ス明文ナシト雖モ道理上之ヲ許サ、ル可カラス  
 ト主張スレモ予輩ハ之ニ贊同スル能ハサルナリ  
 管轄違又ハ公訴受理ス可カラサル申立ハ判決確定ニ至ルマテ何時ニ  
 テモ之ヲ爲スコトヲ得即第一審ノ審理中ニ在ルキハ其判決アルマテ其  
 裁判所ニ之カ申立ヲ爲シ既ニ判決アリタル後判決確定前ニアルキハ  
 控訴ヲ以テ之カ申立ヲ爲シ又控訴判決後ナルキハ上告ヲ以テ之カ申  
 立ヲ爲スコトヲ得是レ管轄違公訴受理ス可カラサル申立ハ公ケノ秩序  
 ニ關スル尤モ大ナルモノナレハ當事者ハ暗黙又ハ明示ニテ拋棄ス可

カラサルニ因リ其裁判確定ニ至ルマテ何時ニテモ之カ申立ヲ爲スコ  
 トヲ許サ、ル可カラス當ニ之ヲ許スノミナラス裁判所ハ管轄違又ハ公  
 訴受理ス可カラサルモノナルコトヲ發見スルキハ職權ヲ以テ管轄違又  
 ハ公訴受理ス可カラサルノ言渡ヲ爲サ、ル可カラス  
 管轄違又ハ公訴受理ス可カラサル申立ヲ却下シタルキハ本案ノ判決  
 ヲ待タス控訴又ハ上告ヲ爲スコトヲ得何トナレハ其却下ノ判決若シ不  
 當ナルキハ本案ノ判決ハ無効ニ歸シ許多ノ手續ハ總テ徒勞ニ屬スル  
 ヲ以テナリ(二七)

### ○第八十九號 裁判ノ種類ヲ説明セヨ

裁判トハ裁判所カ認定ス可キ法律上又ハ事實上ノ事項ニ付與ヘタル  
 判斷ノ結果ヲ云フ今刑事訴訟法ニ就キ裁判ノ種類ヲ釋ヌルキハ左ノ  
 五種ニ過キス



## (二) 判決決定

判決ト決定トノ區別ハ裁判ス可キ事項ノ如何ニ依リ爲シタルモノニシテ即判決ハ總テ本案事件ノ争訟自体ニ付キ爲シタル裁判及本案争訟自体ニアラサルモ本案争訟ニ直接關係ス可キ重要ノ争ニ付キ爲シタル裁判ヲ云フ例ヘハ公訴受理ス可カラサル申立ニ付キ爲シタル裁判ノ如シ此判決ハ更ニ下ノ三種ニ區別スルヲ得決定トハ本案争訟事件ニ直接關係セサル争ニ付キ與ヘタル裁判ヲ云フ例ヘハ訴訟手續ニ付キ起リタル争ニ對シ與ヘタル決定及管轄裁判所指定ノ決定公安又ハ嫌疑ノ爲メ裁判管轄ヲ移ス決定ノ如キ是ナリ

判決ハ總テ辯論ヲ聽キ爲スヲ以テ原則トスルモ決定ハ辯論ヲ聽カスシテ爲スヲ通例トス

## (三) 本案ノ判決豫先ノ判決

本案ノ判決トハ争訟事件ノ自体ニ對シ其全部又ハ一部ニ就キ爲シタル判決ヲ云ヒ豫先ノ判決トハ本案事件ノ判決ヲ爲スニ先チ先ツ或事件ノ確定ヲ要スル場合ニ其事件ニ就キ與ヘタル判決ヲ云フ例ヘハ管轄違公訴受理ス可カラサル申立ニ付キ爲ス判決ノ如シ

## (三) 終局判決中間判決

終局判決ハ訴訟事件ノ終局ヲ告ク可キ判決ニシテ即裁判所カ其判決ニ因リ事件ヨリ離脱シ得可キモノヲ云フ故ニ本案ノ判決ハ常ニ終局判決ナルモ終局判決ハ常ニ本案ノ判決ナリト云フ可カラス何トナレハ管轄違ノ申立公訴不受理ノ申立ヲ認可スル判決ハ豫先ノ判決ニシテ本案ノ判決ニ非サルモ其判決ニ因リ裁判所ハ事件ヨリ離脱スルヲ以テ終局判決ト云ハサル可カラサレハナリ中間判決ハ終局判決ヲ爲ス前或事項ノ確定ヲ要スル場合ニ爲スモノヲ云フ例ヘハ公訴受理ス



可カラサル申立又ハ管轄違ノ申立ヲ却下スル判決ノ如シ故ニ中間判決ハ豫先ノ判決ニ酷ク相類スルモ全ク同一ナリト云フ可カラス

(四) 對席判決、闕席判決

對席判決ハ被告人又ハ代人(罰金以下ノ刑ニ該ル可キ犯罪ニ付テハ)ノ辯論ヲ聞キタル上爲シタル判決ヲ云ヒ闕席判決ハ辯論ヲ聞カスシテ爲シタル判決ヲ云フ被告人又ハ代人辯論ノ爲メ出廷スルモ辯論ヲ肯セス若クハ不當ノ行狀ヲ爲シ裁判長ヨリ退廷又ハ勾留ヲ命セラレタル場合ニハ未タ其辯論ヲ聽カサルモ對席トシテ裁判ヲ爲ス可キモノナリ是レ被告人カ傲慢不遜ニシテ法律ノ保護ヲ受クルヲ肯テセサルモノナレハ止ムヲ得サルニ出ツルナリ(二八三)

(五) 第一審ノ判決 第二審ノ判決 上告審ノ判決

第一審ノ判決ハ第一審裁判所ノ判決ヲ云ヒ第二審ノ判決ハ第二審裁判

所ノ判決ヲ云ヒ上告審ノ判決ハ上告裁判所ノ判決ヲ云フ

○第九十號 闕席判決ト對席判決トナ區別スル利益如何

判決ヲ對席判決ト闕席判決トニ區別スル利益左ノ如シ

第一 闕席判決ハ通常上訴ノ方法ヲ用フルノ外故障ノ方法ヲ以テ其判決ノ更正ヲ求ムルヲ得ルモ對席判決ニ對シテハ故障ヲ爲スヲ許サス

第二 闕席判決ノ場合ハ其判決書ヲ檢事其他訴訟關係人ノ請求ニ因リ闕席者ニ送達ス可キモ對審判決ハ其判決書ノ送達ヲ爲スヲ無シ

(三六)

第三 闕席判決ニ對スル故障ノ期間ハ其判決書ノ送達又ハ判決執行ニ因リ判決アリタルヲ知リタル日ニ始マリ對席判決ノ控訴期間ハ其判決言渡ノ日ヨリ始マルモノトス(二八九)



第四 闕席判決ニ因リ刑ノ言渡ヲ受ケタル場合ハ判決書ヘ其判決ニ對シ故障ヲ爲シ得キト及其期間ヲ記載シ對席判決ニ因リ刑ノ言渡ヲ受ケタル場合ハ裁判長ハ其判決ニ對シ上訴ヲ爲シ得キト及其期間ヲ告知ス可キナリ(三〇七)

○第九十一號 判決原本ニ記載ヲ要スル事項ヲ示セ(三〇三乃至三〇七) 判決原本ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

第一 被告人ノ明示 被告人ノ氏名年齢身分職業住所等苟モ被告人ノ誰タルコトヲ分明ナラシムルニ足ル可キ事項ハ總テ之ヲ記載セサル可カラズ其住所年齢等ノ分明ナラサルキハ容貌体格等ヲ記載シ年齢ニ就テハ其推測スル所ヲ記載スルコトヲ得

第二 判決ノ理由 判決ノ理由ハ有罪ノ判決無罪免訴管轄違ノ判決トニ因リ同一ナラス因テ之ヲ左ニ述ヘン

(一) 有罪ノ判決ヲ爲スニハ事實及法律ニ因リ其理由ヲ明示スルコトヲ要ス其所謂事實上ノ理由トハ犯罪構成ノ要素及再犯、宥恕、自首等加重減輕ノ理由ト爲ル可キモノヲ云フ但酌量減輕ヲ爲ス可キ理由ハ必スシモ判決書中ニ記載スルコトヲ要セサルナリ而シテ是等ノ事實ハ漫然憶斷ヲ以テ採ム可キ者ニ非サレハ其事實ノ認定ニ供シタル證憑無カル可カラズ故ニ事實ノ理由ニハ必其證憑ヲ明示シ裁判官ノ專斷憶測ニ出テタルニアラサルコトヲ明ニス可キナリ又法律上ノ理由トハ據テ以テ處斷ス可キ法律ノ正條ヲ云フ例ヘハ某ノ事實ハ何法律ノ何條ニ依リ處分シ云々ト法律ノ正條ヲ明示スルカ如シ或ル原因ニ因リ刑ノ全免ヲ爲ス場合ト雖モ其ハ元來罪ナキニ非サレハ前ト同ク事實及法律ニ依リ理由ヲ明示セサル可カラズ

(三) 無罪免訴管轄違ノ言渡ヲ爲スニモ事實上ノ理由ヲ明示シ犯罪



ノ證憑十分ナラサルコト被告事件罪ト爲ラサルコト公訴ノ時効ニ罹リタルコト本案ノ管轄裁判所ニアラサルコト等ノ理由ヲ明示セサル可カラス

第三 判決主文 判決主文トハ例ヘハ有罪ノ判決ニ就テハ何々ノ刑ニ處スト云ヘル如キ被告人カ據テ以テ執行ヲ受クル主要ノ部分ヲ云フ

第四 判決ヲ爲シタル裁判所ノ名裁判ヲ爲シタル年月日其事件ニ關與シタル檢事ノ官氏名

第五 其裁判ニ關與シタル判事及裁判所書記ノ署名捺印

第六 闕席判決ニ就テハ故障期間ノ告知

○第九十二號 公判始末書ノ性質如何

公判始末書ハ公判ノ始末即公廷ニ於テ履行シタル総テノ手續及公廷

ニ顯出シタル總テノ事項ヲ登載ス可キモノニシテ其記載ス可キ事項ノ如キハ法律ニ於テ(第二百八條第二百九條)之ヲ明示シタリト雖モ固ヨリ之ヲ制限シタルニ非ス唯例示シタルニ過キサレハ此他ノ事項ト雖モ苟モ公廷ニ顯出シタルモノハ悉ク之ヲ網羅スルヲ要スルナリ而シテ此始末書ヲ作ルコトヲ要スル所以ハ彼ノ豫審ノ調書ニ於ケル如ク主トシテ犯罪事實ヲ證明スル資料ト爲スニ非スシテ公判ノ顛末ヲ登載シ以テ公判ニ於テ定規ノ手續ヲ遵由シタルヤ否訴訟關係人ハ如何ナル申立ヲ爲シタルヤ等ヲ上級審ニ向テ證明スルヲ主トスルモノナリ故ニ其目的豫審ノ調書ト同シカラサルヲ以テ其作製ノ形式ニ至リテモ被告人證人鑑定人等ニ一々之ヲ讀ミ聽セ署名捺印セシムルコト無ク單ニ裁判長及裁判所書記ノ署名捺印ヲ要スルノミ

公判始末書ハ裁判所書記カ現ニ目撃聞知シタル所ヲ其場ニ在リテ記



載スルモノナレハ一種ノ公正證書タルヤ疑ヲ容レサルナリ左レハ其證據力ハ完全ニシテ偽造ノ訴アルニ非サレハ其登載セラレタル事實ハ真正ナリトノ推定ヲ受クルモノトス

○第九十三號 公判ニ於テ公訴ヲ受理スル原因如何

公判ニ於テ公訴ヲ受理ス可キ場合ハ左ノ三箇ニ外ナラス(三三)

一 檢事ノ起訴

二 豫審判事ノ決定

三 上級裁判所ノ裁判

第一ノ原因ハ檢事カ搜查處分ヲ終ヘ犯罪ノ證據十分ナリト思料シ管轄裁判所ニ公判ヲ求メタル場合ヲ云フ重罪事件ニ付テハ常ニ豫審ヲ經サル可カラサルヲ以テ檢事ヨリ直ニ公判ヲ求ムルヲ無キモ(公判ノ審理中重罪事件ナルコトヲ覺知シタルキハ此限ニ非ス)輕罪以下

ノ事件ニ付テハ檢事ノ起訴ニ因リ公訴ヲ受理スル場合尤モ多キニ居ル(三二)

第二ノ原因ハ豫審判事カ犯罪ノ證據ヲ蒐集シ終リ以テ有罪ト思料シタルキ管轄裁判所ヲ指定シ之ニ其事件ヲ移ス可キ決定ヲ爲シタル場合ヲ云フ(二六、乃至三六)

第三ノ原因ハ例ヘハ管轄裁判所指定ノ申請ニ因リ上級裁判所ニ於テ爲シタル指定ノ決定及公安又ハ嫌疑ノ爲メ裁判管轄ヲ移スノ申請ニ因リ之ヲ認許スル決定又ハ上告裁判所ニ於テ原判決ヲ破毀シ其事件ヲ他ノ同等ナル裁判所ヘ移スノ判決アリタル等ノ場合ヲ云フ(三乃至五、二六)

○第九十四號 被告人ニ對シ發スル呼出狀ニ記載ス可キ事項如何

何(三四)



被告人ニ對シ發スル呼出狀ニ記載ヲ要スル事項左ノ如シ

- 一 呼出ヲ受ケタル者ノ氏名職業住所
- 二 出頭ノ日時
- 三 出頭ノ場所

右三個ノ條件中其一ヲ缺クキハ毫モ呼出狀タル形体ヲ具ヘサルモノナレハ斯ル呼出狀ヲ送達スルモ何等ノ效果ヲ見ハス能サルナリ

- 四 被告事件ノ記載 呼出狀ニ被告事件ヲ記載スルハ被告人ヲシテ呼出ヲ受ケタル理由ヲ知ラシメ以テ辯護ノ準備ヲ爲スヲ得セシムルノ旨趣ニ外ナラサレハ若シ被告事件ノ記載缺如スルキハ辯護準備ノ爲メ二日ノ猶豫ヲ求ムルヲ得

- 五 違警罪又ハ罰金ノ刑ニ該ル可キ輕罪事件ナルキハ代人ヲシテ出頭セシムルヲ得可キ旨ノ記載

此他一般ノ規定ニ從ヒ呼出狀ヲ作りタル年月日場所裁判所書記ノ署名捺印廳印ノ押捺等ヲ要スルハ當然ナリ

○第九十五號 公判手續ノ概要ヲ述ヘヨ

公判ノ手續ハ公判開廷前ニ盡ス可キモノト公判開廷後ニ盡ス可キモノトアリ

公判開廷前ニ盡ス可キ手續

被告人ニ對シ呼出狀ヲ送達シ出廷ヲ命スルヲ 此呼出狀ニハ被告事件ヲ記載シ且呼出狀ノ送達ト出廷トノ間少クモ二日ノ猶豫ヲ存スルヲ要ス是レ被告人ヲシテ辯護ノ準備ヲ爲サシムル旨趣ナレハ此手續ヲ履行セサルキハ被告人ハ辯護準備ノ爲メ二日ノ猶豫ヲ求ムルヲ得(三三乃至三五)

此他重罪事件ニ付テハ特ニ左ノ手續ヲ履行スルヲ要ス



裁判長ハ開廷前自己又ハ受命判事ヲシテ裁判所書記ノ立會ヲ以テ被告  
 人ニ對シ被告事件ノ概略ヲ訊問シ且辯護人ヲ選任シタルヤ否ヲ問  
 ヒ若シ被告人自ラ辯護人ヲ選任セサルハ裁判長ハ職權ヲ以テ其所  
 屬ノ辯護士中ヨリ辯護人ヲ選任ス可キナリ而シテ裁判所書記ハ右ノ訊  
 問答辯ヲ調書ニ筆録シ之ヲ一件記録ニ添付スルコトヲ要ス(三三)

重罪事件ニ付特ニ斯ノ如キ手續ヲ要スル所以ハ願フニ犯罪中社會ヲ  
 害スルコト之ヨリ大ナルハ莫ク其刑モ亦之ヨリ重キハ莫シ故ニ其審  
 判ノ手續ハ尤モ鄭重周密ヲ旨トシ苟モ過斷誤判ノ事アル可カラサル  
 ヲ期セサル可カラス若シ其レ其審判ノ手續ヲ忽諸ニ付シ去ランカ當  
 該官ノ審理モ勢ヒ輕卒ニ流レ時ニ過誤ノ裁斷アルヲ免レサルナリ是  
 レ重罪事件ニ付テハ鄭重ナル手續ヲ履行シ緻密ナル審査ヲ經ル所以  
 ナリ

重罪事件  
 二付開廷  
 前ノ訊問  
 ナルキタ  
 ルハ被告  
 人異議ノ  
 申立ヲ爲  
 サスシテ  
 審判ヲ受  
 ケタル後  
 上告ノ理  
 由ト爲ル  
 乎

辯護士ノ選任ヲ爲シタルモ開廷前訊問ノ手續ヲ盡サスシテ開廷シタ  
 ルキハ被告人ハ異議ヲ申述スルコトヲ得可キハ當然ニシテ敢テ疑ヲ容  
 ル可キ無シト雖モ若シ異議ヲ述ヘスシテ判決ヲ受ケタル後其缺爲ヲ  
 理由トシテ判決ヲ攻撃スルコトヲ得ル乎予願フニ開廷前是等ノ手續ヲ  
 盡スハ被告人ヲシテ辯護ノ準備ヲ爲サシムルニ外ナラサレハ開廷ノ  
 際異議ノ申立ヲ爲サスシテ審査ヲ受ケタル上ハ辯護ノ準備ハ既ニ整  
 ヒタリト見做スコトヲ得可ケレハ最早ヤ右ノ缺爲ヲ理由トシテ異議ヲ  
 申立ツルコトヲ許サストスルヲ以テ正肯ヲ得タルモノト信ス然ルニ開  
 廷前ノ訊問調書ニ官署印ヲ押捺セサリシ事件ニ付大審院ハ該調書ハ  
 無効ノモノナレハ其判決ハ式ニ從ヒ審理ノ順序ヲ盡シタリト認め難  
 シトテ本案ノ判決ヲ破毀シタル判決例アリ(明治廿六年十一月ノ判例)  
 此判決例ニ依ルキハ大審院ハ右ノ缺爲ニ對シ何時ニテモ異議ヲ申立



ツルコヲ得トノ所見ヲ懷クモノ、如シ  
開廷後ノ手續

第一段 裁判長ハ先ツ被告人ノ氏名、年齢、身分、職業、住所、出生ノ地ヲ訊問ス是レ被告人ノ人違ヒナキヤ否ヲ確メシカ爲メナリ

第二段 検事被告事件ヲ陳述ス

第一段ノ手續ヲ終ルトキハ検事ハ被告事件ニ付事實ヲ陳述シ以テ裁判所ヲシテ如何ナル犯罪事實ニ因リ公訴アリタルカヲ知ラシム

(三二七)

第三段 事實ノ審査(三二九)

検事カ被告事件ニ付事實ノ陳述ヲ終ルヤ裁判所ハ其事實ノ審査ニ着手セサル可カラズ即先ツ被告人ニ對シ其事實ノ有無ヲ訊問シ而ノ後原被告両造ノ請求スル證據徴憑ヲ調査シ其結果ニ因リ得タル

處ノ心證ヲ以テ判決スルコヲ要ス故ニタトヘ被告人ノ自白アルモ裁判所ハ直ニ之ニ因リ判決ヲ下スコ無ク必ス各般ノ證據徴憑ノ調査ヲ爲サ、ル可カラス然レモ區裁判所ノ管轄ニ屬スル事件ニ付テハ被告人ノ自白アルモ他ノ證憑ヲ取調フルコ無ク判決ヲ爲スコヲ許セリ是レ區裁判所ノ管轄ニ屬スル事件ハ事輕微ニシテ利害ノ關係モ極メテ少キモノナレハ其手續ノ簡略ヲ旨トシタルニ過キスシテ其自白ノ證據力ヲ以テ動ス可カラサルモノト爲シタルニ非ス一般刑事ノ探證法ニ依リ之ヲ取捨スルコハ裁判所ノ自由ニアリトス故ニ裁判所ハ自白アルニ係ラス職權ヲ以テ他ノ證憑ノ調査ヲ爲スコヲ得可ク又訴訟關係人ノ請求アルモ他ノ證憑ノ調査ヲ爲サル可カラサルナリ

右述フル如ク證據徴憑ノ取調ハ開廷後一應被告人ノ陳述ヲ聽キタ



ル後ニ爲スヲ通例トスト雖モ區裁判所ノ管轄ニ屬スル事件ハ普通豫審ヲ經サルヲ以テ臨檢ヲ要スル急速ノ場合アルモ豫審判事ノ處分ヲ求ムルヲ能ハサレハ公判ニ於テ急速之ニ應スルノ途ナクンハ遂ニ犯罪ノ證憑ヲ失フコアルヲ免レス故ニ區裁判所ノ公判ニ於テハ豫審ヲ經サル事件ニシテ急速ヲ要スルルキハ公判ニ取掛ル前檢證處分ヲ爲スコヲ許セリ

第四段 事實上及法律上ノ辯論

裁判所ニ於テ事實ノ審査終ルルキハ檢事ハ事實ニ付己ノ確信スル處ノ意見ヲ陳述シ被告人及辯護人ハ之ニ對シ答辯ヲ爲ス而シテ事實ノ辯論終ルルキハ檢事ハ其事實ニ適用ス可キ法律ニ就キ意見ヲ陳述シ被告人及辯護人ハ之ニ答辯ヲ爲スコキモノトス實際ニ在テハ反駁復答互ニ辯難攻撃ヲ爲シ辯論數回ニ涉ルコアリト雖モ最終ニハ必

ス被告人及辯護人ヲシテ答辯ヲ爲サシメサル可カラス最終ノ答辯ハ被告人ニ屬スル辯護權ノ一ナレハ此規定ヲ遵守セサル判決ハ破毀ヲ免レサルナリ(三三〇)

第五段 私訴ノ審査及辯論

私訴ノ申立アルルキハ公訴ノ審査辯論終リタル後之カ審査ニ着手スルヲ順序ナリトスルヲ以テ公訴ノ辯論終ルヤ民事原告人ハ被害ノ事實ヲ證明シ且其請求スル處ヲ陳述シ被告人辯護人及民事擔當人ハ之ニ對シ答辯ヲ爲スコキモノトス(三三二)

第六段 判決(三三三)

判決ハ總テノ辯論終リタル後即日又ハ其後ノ開廷日ニ爲スコキモノニシテ即チ犯罪ノ證憑十分ナルルキハ刑法其他ノ法律ニ從ヒ刑ノ言渡ヲ爲シ犯罪ノ證憑十分ナラス又ハ被告事件罪トナラサルルキハ

第一審裁  
所ニ於  
テ如何  
ル場合  
ニ如テ  
如何ナ  
ル可キ  
乎



無罪ノ言渡ヲ爲シ公訴ノ時効ニ罹リタルキ確定判決ヲ經タルキ大赦アリタルキ法律ニ於テ其刑ヲ全免スルキ親告罪ニ就キ告訴ノ拋棄アリタルキハ免訴ノ言渡ヲ爲シ被告事件其管轄ニ屬セストスルキハ管轄違ノ言渡ヲ爲ス可キナリ但地方裁判所ニ在テハ其事件區裁判所ノ管轄ニ屬スルモノト認メタルキト雖モ管轄違ノ言渡ヲ爲サスシテ直ニ第一審ノ判決ヲ爲ス可キモノトス私訴ニ付テハ請求金額ノ多寡ニ拘ハラズ之ヲ受理シタル裁判所ニ於テ直ニ判決ヲ爲ス可キモノトス

○第九十六號 闕席判決ハ如何ナル場合ニ之ヲ爲ス可キ乎(三六、三七) 闕席判決ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ爲ス可キモノトス

第一 違警罪ノ刑又ハ罰金ノ刑ニ該ル可キ輕罪ノ被告事件ニ付テハ被告人有效ニ呼出ヲ受ケ本人又ハ其代人期日ニ出頭セサルキ

第二 禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ輕罪又ハ重罪事件ニシテ豫審終結ノ言渡書又ハ公判ノ呼出狀ヲ被告本人ニ送達シタル證アリテ期日ニ被告本人出頭セサルキ

第三 禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ事件ニシテ豫審終結ノ言渡書公判ノ呼出狀ヲ被告本人ニ送達スル能ハサルキ裁判所ニ於テ公判猶豫ノ期間ヲ定メ其期間内ニ出頭セサルキハ闕席判決ヲ爲ス可キ旨ノ告知ヲ爲スモ期日ニ被告人出頭セサルキ  
右ノ告知ヲ爲ス方法ハ告知書ヲ作り其親屬又ハ本籍若クハ最後ノ住所ノ地ノ市町村長ニ送達ス可キナリ若シ其本籍若クハ最後ノ住所ノ地分明ナラサルキハ告知書ヲ少クモ一月間裁判所ノ揭示板ニ貼付シテ公示スルモノトス

闕席判決ハ以上三箇ノ場合ニ限り之ヲ爲ス可キモノニシテ彼ノ被告



出頭スルモ辨論ヲ肯セサル場合及被告人審問ヲ妨ケ又ハ不當ノ行狀ヲ爲シ退廷又ハ勾留ヲ命セラレタル場合ノ如キハ被告人ノ辯論ヲ聞カスシテ裁判ヲ爲スヲ以テ其性質闕席判決ニ屬スルモ之ヲ闕席トシテ判決スルコトヲ得ス(二八三)

○第九十七號 闕席判決ニ對シ故障ヲ申立ツ可キ期間如何(三九)

第一 違警罪又ハ罰金ノ刑ヲ言渡シタル判決ニ對シテハ其判決ノ言渡アリタルヨリ三日内トス

此場合ハ判決ヲ直接ニ被告本人ニ送達スルコトヲ要セサルヲ以テ被告入ハ刑ノ言渡アリタルコトヲ毫モ知ラサル間ニ其判決ハ既ニ確定シ刑ノ執行ヲ受ケサルヲ得サルノ不都合アルヲ免レス然ルニ法律カスル規定ヲ爲シタルハ如何ナル理由ニ因ルカヲ推考スルニ蓋シ罰金以下ノ刑ハ利害ノ繫ル所甚少キヲ以テ時ニ或ハ此不都合ア

ルモ此不都合ハ尙ホ多クノ判決ヲ永ク未確定ノ裏ニ措クノ弊害多キモノニ勝ルトノ利害上ノ比較ニ出テタルモノナラン予願フニ此場合ニ判決ヲ被告本人ニ送達スルコト能ハサルキハ故障期間ヲ一層延長シ本人ヲシテ其判決アリタルコトヲ知ラシムルニ稍多クノ余裕ヲ存セハ右ノ不都合ヲ見ル勘カル可シト

第二 禁錮以上ノ刑ヲ言渡シタル判決ニ對シテハ本人自ラ判決ノ送達ヲ受ケ刑ノ言渡アリタルコトヲ知リ又ハ判決ノ執行ニ因リ刑ノ言渡アリタルコトヲ知リタルヨリ三日内トス

禁錮以上ノ刑ハ其利害ノ關係甚大ナルヲ以テ本人カ刑ノ言渡アリタルヲ知リタルコトノ確實ナル場合ニ非サレハ故障期間ヲ進行セシメス而シテ其之ヲ知リタルコトノ確實ナリト見做ス可キハ右ノ二個ノ場合ニ限ルヲ以テ他ノ事情ニ因リ(例ヘハ親屬ノ通知ノ如キ)刑ノ言



渡アリタルコトヲ知ルト雖モ爲メニ故障期間ノ進行ヲ始ムルモノニ  
アラス

天災其他避ク可カラサル事變ノ爲メ故障期間ヲ經過シタルキハ其障  
礙ノ止ミタルヨリ三日内ニ之ヲ疏明スルキハ故障ヲ爲ス權利ヲ回復  
スルコトヲ得(三三三、三三七)

○第九十八號 故障ニ付テノ手續ヲ述ヘヨ(三三〇乃至三三三)  
故障ノ申立ハ闕席判決ヲ爲シタル裁判所即原裁判所へ其申立書ヲ差  
出シテ之ヲ爲スモノトス  
裁判所ハ右ノ申立アリタルキハ其旨ヲ相手方ニ通知シ且之ト同時ニ  
公判ニ付ス可キ期日ヲ定メ訴訟關係人ヲ呼出ス  
公判開廷ノ期日ニハ裁判所ハ先ツ職權ヲ以テ故障ノ申立ヲ爲スコトヲ  
得可キ判決ニ對シ故障ヲ爲シタルヤ否又其故障ハ期間内ニ係ルヤ否

ヲ調査シ此要件ヲ具備シタルキハ故障受理ノ決定ヲ爲ス於是乎前ノ  
闕席判決ハ全然其效ヲ失ヒ曾テ判決ナカリシト同一ニ見做サル、ヲ  
以テ普通公判ノ手續ニ依リ審判ヲ爲スナリ之ニ反シテ若シ此要件ノ  
一ヲ缺クキハ判決ヲ以テ故障棄却ノ言渡ヲ爲ス從ツテ前ノ闕席判決  
ハ全然其效ヲ生シ確定力ヲ有スルモノトス

○第九十九號 未決勾留ヲ受ケタル被告ニ對シ拘留、科料又ハ罰  
金ノ刑ヲ言渡タルキハ釋放ノ言渡ヲ爲ス可キ乎

未決勾留ヲ受ケタル被告人ニ對シ拘留、科料、罰金ノ刑ヲ言渡シタルキ  
ハ特ニ釋放ノ言渡ヲ爲ス可キ乎否ニ付テハ法律ハ之ヲ無言ニ付シタ  
リ豫審ニ於テハ斯ル場合ニ釋放ノ言渡ヲ爲ス可キ旨規定シタルヲ以  
テ之ヲ引援シ釋放ノ言渡ヲ爲サ、ル可カラサルカ如シト雖モ拘留、科  
料、罰金ノ刑ニ該ル可キ被告人ニ對シテハ元來未決勾留ヲ爲ス可キモ



ノニ非サレハ既ニ判決ヲ以テ被告人ニ對シ是等ノ刑ヲ適用シタル上ハ當然之ヲ釋放ス可ク特ニ之カ言渡ヲ爲スヲ要セサルナリ彼ノ豫審終結決定ノ如キハ事件ノ落着ヲ告クルモノニ非サレハ特ニ言渡ヲ爲サスンハ猶其事件繫屬中ハ依然勾留狀ノ效力ヲ保有スルヤノ疑ナキ能ハサルヲ以テ豫審ニ就テハ特ニ釋放ノ言渡ヲ爲スノ必要アルナリ故ニ檢事ハ拘留科料罰金ノ言渡ヲ受ケタル者未決拘留ニ在ルキハ直ニ之ヲ釋放シ其判決ノ確定ヲ待テ刑ノ執行ヲ爲サ、ル可カラズ去レハ拘留ノ刑ニ處セラレタル者ノ如キハ釋放ノ後再ヒ之ヲ捕ヘテ入監セシメサル可カラサルノ不便アルヲ以テ實際ニ在リテハ被告人ノ請求アルキハ確定ヲ待タスシテ直ニ執行ヲ爲スト云フ

○第百號 地方裁判所ニ於テ區裁判所ニ屬スル事件ナリト認メタルキハ如何ナル判決ヲ爲ス可キ乎(三四)

本問ノ場合ニ於テハ二箇ノ疑点ヲ生ス即管轄違ノ判決ヲ爲ス可キヤ又ハ直ニ本案ノ判決ヲ爲ス可キヤ如何又直チニ本案ノ判決ヲ爲ストセハ其判決ハ第一審ノ判決ナルヤ又ハ第一審ト第二審トヲ併セタル判決ナルヤ如何ト云フニ在リ

第一疑点 凡ソ犯罪ノ種類ニ因リ管轄權限ヲ區別シタルハ其要下級裁判所ノ權限ヲ制限スルニ在リ即地方裁判所ニ屬スル事件ハ如何ナル場合ト雖モ下級ナル區裁判所ニ於テ審判スルコトヲ許サス反之下級裁判所ニ屬スル事件ハ上級裁判所ニ於テ之ヲ審判スル權限無キニ非ス唯檢事カ當初公訴ヲ提起スルニ該リテ區裁判所ニ屬スル事件ナルコトヲ知リテ地方裁判所ニ起訴スルコトヲ許サ、ルニ止マルナリ尙之ヲ換言セハ犯罪ノ種類ニ付テノ管轄ノ制限ハ上級裁判所ニ對シテハ檢事カ何レノ裁判所ニ起訴ス可キ事件ナルヤヲ甄別ス



地方裁判所ニ屬スル事件ニ付キ第二審トシテ  
地方裁判所ニ屬スル事件ニ付キ第二審トシテ  
地方裁判所ニ屬スル事件ニ付キ第二審トシテ  
地方裁判所ニ屬スル事件ニ付キ第二審トシテ  
地方裁判所ニ屬スル事件ニ付キ第二審トシテ

ルノ標準タルニ過キサレハ上級裁判所ハ公訴受理ノ後下級裁判所ニ屬スル事件ナルヲ認ムルモ當然之ヲ審判スル權限アルナリ故ニ此場合ニハ管轄違ノ判決ヲ爲サス直ニ本案ノ判決ヲ爲ス可キ也  
法理ニ據ル議論斯ノ如シ今實際ノ便益ヨリ之ヲ論スルモ地方裁判所ニ於テ管轄違ノ言渡ヲ爲スハ檢事ハ更ニ區裁判所ニ起訴シ區裁判所ヲシテ新ニ審判セシメサル可カラサルニ至リ無用ノ手數ト費用トヲ要スルヲ以テ寧ロ直ニ本案ノ判決ヲ爲スニ如カサルナリ  
右ノ所論ニ據ルキハ大審院ニ於テ其特別權限ニ屬スル事件(構成法第五十條第二)ナリトシテ受理シ審判ノ後特別權限ニ屬スル事件ナラサルヲ覺知シタル場合モ亦同一ナリト謂ハサルヲ得ス  
第二疑点 地方裁判所ハ元來區裁判所ニ屬スル事件ニ付キ第二審ノ判決ヲ爲ス權限ヲ有スルヲ以テ其事件ニ付テハ直ニ第二審トシテ

判決ヲ爲スモ正理ヲ害スルヲ莫シ然リト雖モ訴訟當事者カ第一審ノ判決ニ服セサルキハ第二審ノ判決ヲ求ムル權利ヲ有ス(構成法第五十條第二)ハ此限ニ非スルヲハ公法ノ認ムル所ナリ然ルヲ今地方裁判所ニ於テ區裁判所ニ屬スル事件ナリトシテ判決シタルカ爲メ第二審ノ判決ヲ受クル權利ヲ失却ストセハ公平ノ主義ニ戾ルト謂ハサルヲ得ス加之其事件タル檢事又ハ上級審ニ於テハ地方裁判所ニ屬スル事件ナリト信シテ起訴又ハ移送シタルモノナレハ縦ヒ地方裁判所ニ於テ區裁判所ニ屬スル事件ナリト判決シタルモ其當否ニ付テハ幾分カ疑ヲ容レサルヲ得サルヲ以テ寧ロ第一審ノ判決トシテ裁判ヲ爲シ其判決ニ對シ控訴ヲ許スノ優レルニ如カサルナリ

○第一百號 地方裁判所ニ於テ輕罪事件トシテ受理シタルヲ重罪ナリト認メタルキ又ハ檢事ヨリ更ニ其事件ヲ重



罪トシテ訴追スルコト申立タルキノ處分如何(二四二)

本問ノ場合ハ被告事件未タ豫審ヲ經サルキト既ニ豫審ヲ經タルキト其手續ヲ同フセス

第一 被告事件未タ豫審ヲ經サルキ

重罪事件ハ必ス豫審ヲ經ルコトヲ要スルヲ以テ其事件未タ豫審ヲ經サルモノナルキハ豫審ノ取調ヲ爲ス爲メ之ヲ豫審判事ニ送付スル決定ヲ爲シ直ニ豫審判事へ事件ヲ送致スルヲ要ス此場合ニ被告人未タ拘留ヲ受ケサルキハ拘留狀ヲ發シ又保釋ヲ許シ責付ヲ爲シタルキハ之ヲ取消ス可キナリ(二六)

第二 既ニ豫審ヲ經タルキ

公判ヲ中止シ更ニ重罪事件トシテ裁判ス可キ旨ヲ決定シ受命判事ヲシテ其事件ノ取調ヲ爲シ報告ヲ爲サシメタル後再ヒ公判ヲ開廷

ス是レ此場合ニ更ニ豫審判事ニ送付シ取調ヲ爲サシムルハ恰モ汝ノ處分ハ誤謬ナリ之ヲ更正ス可シト命スルニ等シケレハ情ニ於テ忍ヒサル所アルノミナラス豫審判事ハ前意見ノ先入ニ依リ處分ノ正鵠ヲ失スルノ憂アレハナリ  
被告人ニ對シ拘留狀ヲ發シ又ハ保釋責付ヲ取消スコハ此場合モ前ト同一ナリ

第五編 上訴ノ部

○第二百二號 上訴ノ定義及其種類ヲ示セ

上訴トハ總テ裁判ニ對シ不服アル者ヨリ其裁判ヲ廢滅セシメンコトヲ目的トシ又ハ其裁判ヲ廢滅セシメ更ニ新ナル裁判ヲ爲サシメンコトヲ目的トシテ上級裁判所へ要求スル訴ヲ云フ刑事訴訟法ニ規定スル上訴ノ方法ハ曰ク控訴曰ク上告曰ク抗告曰ク非常上告曰ク再審是ナリ



攻學上上訴ヲ分テ二ト爲シ一ヲ通常上訴ト謂ヒ一ヲ非常上訴ト云フ  
通常上訴トハ普通上訴期間内ニ提起ス可キモノニシテ控訴、抗告、上告  
ヲ概稱シ非常上訴トハ既ニ確定シタル判決ニ對シ提起スルモノニシ  
テ非常上告再審ヲ概稱ス學者中法律ニ於テ不服ヲ申立ツルコトヲ得  
ル一定ノ原因ヲ制限シタルモノヲ非常上訴トシ然ラサルモノヲ通常  
上訴トスル者アリ此區別ノ標準ニ從フキハ上告ノ如キモ非常上訴中  
ニ算入セサル可カラス

○第三百三號 上訴ハ何人カ之ヲ爲スヲ得ル乎(二百三至二百四)

上訴ヲ爲シ得可キ者ハ其訴訟ニ付直接利害ノ關係ヲ有スル者即訴訟  
關係人ヨリ之ヲ爲スヲ得ルヲ以テ原則トス我刑事訴訟法ニ於テハ  
上訴ヲ爲スヲ得ル者ヲ左ノ如ク定メタリ

第一 被告人 判決ニ付尤モ多ク利害ノ關係ヲ有スル者ハ被告人ナ

リ故ニ被告人ニ上訴權アルハ噴々ヲ要セス然レモ如何ナル判決ニ  
對スルモ常ニ之ヲ許スニ非ス即チ其判決カ自己ニ不利益ナル場合  
タラサル可カラス而シテ不利益ナル判決トハ總テ處刑ノ判決ヲ指  
稱ス故ニ免訴又ハ無罪ノ判決ヲ受ケタル場合ハ之ニ對シ上訴ヲ爲  
スヲ得ス是レ利益ナケレハ訴權ナシトノ格言ニ基クモノナリ然  
レモ免訴ノ判決ハ犯罪ノ事實ナキヲ表示スルニ非サルヲ以テ被  
告人ノ名譽ヲ毀損スルモノト云ハサル可カラサレハ之ニ對シ上訴  
ヲ許スヲ以テ正理ニ適シタルモノト云ハサル可カラサルナリ

第二 檢事 檢事ハ無罪免訴ノ判決ニ對シテハ國家ノ爲メ處刑免刑

ノ判決ニ對シテハ直接被告人ノ利益ノ爲メ上訴ヲ爲スヲ得是レ  
檢事ハ公益保護ノ任ニアルモノナレハ苟モ不當ナル事實ノ認定不  
法ナル法律ノ適用ナリト思料スルキハ上訴ヲ爲シ以テ判決ノ更正



ヲ求ムルコトヲ得然レモ檢事モ免訴ノ言渡ニ對シテハ被告人ノ利益  
ノ爲メ上訴ヲ爲スコトヲ得ス(二七〇)

第三 被告人ノ法律上代理人 被告人ノ法律上ノ代理人ハ訴訟關係  
人ニ非サルモ是等ノ者ハ常ニ無能力者ノ利益ヲ保護スル任ニ在ル  
ヲ以テ其利益ノ爲メ上訴ヲ爲スコトヲ許スハ尤モ正理ニ適シタルモ  
ノト云フ可シ蓋シ無能力者ハ思量淺薄ニシテ事理ニ通曉セサレハ  
其利益ヲ保護スルニ於テハ本人ノ意思如何ニ關セス獨立シテ上訴  
ヲ爲スコトヲ得

第四 辯護人 辯護人モ亦訴訟關係人ニ非スト雖モ法律上代理人ト  
等ク被告人ノ利益ヲ保護スル任ニ在ルモノナレハ其利益ノ爲メ上  
訴ヲ爲スコトヲ許スハ適理ト云フ可キナリ蓋シ被告人法律ニ暗キ爲  
メ時ニ不當ナル判決ニ屈從スル憂ナシトセサレハ辯護人ヲシテ之

カ救護ノ道ヲ盡サシムルナリ然レモ此場合ハ無能力者ノ如ク常ニ  
智識不備ノ者ト推定スルコト能ハサルヲ以テ被告本人ニ於テ明ニ反  
對ノ意見アルキハ上訴ヲ爲スコトヲ許サス故ニ辯護人ハ必ス被告本  
人ノ意思ヲ體シ以テ上訴ヲ爲サ、ル可カラサルナリ

第五 私訴ニ付テハ民事原告人民事被告人ハ訴訟當事者ナルヲ以テ  
私訴ノ判決ニ對シ是等ノ者ヨリ上訴ヲ爲スコトヲ得

○第四百四號 上訴ノ取下ハ之ヲ爲スコトヲ得ル乎若シ爲シ得ルト  
セハ其效果如何(二四〇)

本問ニ對シテハ檢事ノ上訴ト其他ノ者ノ上訴トヲ區別シテ答案ヲ付  
セサル可カラス

檢事ノ上訴

公訴權ハ元來國家ニ屬シ檢事ハ唯其執行ノ任ニ該ルノミナレハ檢



事カ一旦其執行ニ着手シタル上ハ中途ニシテ自由ニ之ヲ取捨スル  
コヲ許サ、ルナリ故ニ檢事ハ一旦公訴ヲ提起シタル後ハ縱令被告  
人ノ無罪ナルコヲ覺知スルモ第一審ナルト第二審ナルト其他ノ場  
合ナルトヲ問ハス公訴ノ取下ヲ爲スコヲ得ス必ス裁判所ノ判定ニ  
一任スルコヲ要ス

被告人其他ノ者ノ上訴

被告人其他ノ者ノ上訴權ハ畢竟被告人ノ辯護權ニ淵源シ上訴權ハ  
辯護權ノ一部分ナリト云フ可ケレハ其權利ノ行使ハ一ニ之ヲ行フ  
者ノ方寸ニ放任スルコヲ要ス故ニ上訴ヲ爲スモ何時ニテモ之カ取  
下ヲ爲スコヲ得可キナリ然レモ既ニ上訴ノ判決アリタル後ハ最早ヤ  
上訴權ノ執行ヲ遂ケ終リタルモノナレハ之ヲ取下クルコト能ハサル  
ナリ

上訴取下ノ效果ハ曾テ上訴ノ申立ナカリシト同一ニ見做サレ前判  
決ヲ確定セシムルニ在リ若シ相手方カ付帶上訴ヲ起シタルキハ其  
付帶上訴モ自然消滅セシム然レモ其付帶上訴カ通常ノ上訴期間内  
ニ申立テラレタルキハ其付帶上訴ハ獨立ノ上訴トシテ效力アルモ  
ノトス

○第二百五號 上訴權ヲ失ヒタル場合ニ之ヲ回復スル途アル乎(三覽)

(二覽)

總テ上訴ヲ以テ攻撃シ得ヘキ判決決定ニ對シ上訴期間内ニ上訴ノ申  
立ナキキハ其判決決定ハ確定シ復動カス可カラズ蓋シ上訴期間内ニ  
上訴ノ申立ヲ爲サ、ルハ其判決ノ正當ニシテ之ニ服從シタリト見做  
ス可ケレハナリ然リト雖モ此推定ハ被告人カ上訴ノ途アルヲ知リナ  
カラ之ヲ爲サ、ルキ又ハ事實上上訴ヲ爲スコト能ハサリシニ非サル場

上訴期間  
ノ停止ト  
ノ回復ト  
ノ如何



合ニ非スンハ之ヲ適用スルヲ得ス夫レ法律ハ極メテ復雜錯綜ナルヲ以テ之ヲ知悉セサル者滔々皆然リトス故ニ裁判言渡アル毎ニ必ス上訴ヲ爲シ得可キ事及其期間ヲ告ケ以テ被告人ヲシテ其法規ヲ知ラシムルノ道ヲ設ケタリ而シテ此告知ヲ受クルモ尙上訴ヲ提起セサレハ茲ニ初メテ其裁判ニ心服シタリト推定シ以テ之ヲ確定セシムルニ足ル可シ故ニ若シ此告知ヲ爲スコトヲ怠リタルキハ更ニ被告人等ニ對シ告知ヲ爲スマテハ上訴期間ノ進行ヲ始ムルヲ無シ是レ之ヲ上訴期間ノ停止ト云フ(三七)又被告人等カ上訴期間ヲ空過シタルハ敢テ其任意ニ出テタルニ非ス天災其他避ク可カラサル障礙ノ爲メ事實上上訴ノ申立ヲ爲スコト能ハサリシ場合モ其裁判ニ心服シタリト推定スルコト能ハサルヲ以テ是等ノ障礙ノ爲メ上訴期間ヲ空過シタルキハ之ヲ回復スルノ途ナカル可カラス是レ之ヲ上訴期間ノ回復ト云フ(民事ニ在テ

ハ之ヲ原狀回復ト稱ス)

期間ノ回復ヲ申立ツルニハ天災其他避ク可カラサル事變ノ爲メ期間内ニ上訴ノ申立ヲ爲スコト能ハサリシ事及天災其他ノ事變ノアリシコトノ疏明方法ヲ申立テ上訴ノ申立ト同時ニ提出ス可キナリ而シテ其提出期間ハ天災其他ノ事變ノ止ミタルヨリ起算シ通常ノ上訴期間内ナリトス是レ障礙ノ止ミタルモ上訴ノ申立テヲ爲スニハ事實ノ疏明其他ノ準備ニ多少ノ日子ヲ要スルヲ以テ斯ク通常ノ上訴期間ノ猶豫ヲ與ヘタルナリ

裁判所ハ右ノ申立ヲ受理シタルキハ其申立書ヲ相手方ニ送達スルナリ相手方ハ三日内ニ答辯書ヲ提出スルヲ得而シテ其申立ノ許否ヲ決スルハ上訴裁判所ニ於テ檢事ノ意見ヲ聽キタル上之ヲ決定ス若シ其申立カ許可セラレタルキハ通常ノ期間内ニ上訴アリタルト同一效果



ヲ生ス

○第六號 控訴ハ如何ナル判決ニ對シ之ヲ爲スヲ得ル乎(三五)

(三五)

控訴ハ左ノ二箇ノ判決ニ對シ之ヲ爲スヲ得

- 一 第一審トシテ爲シタル本案ノ判決
  - 二 管轄違公訴受理ス可カラサル申立ヲ却下スル本案前ノ判決
- 本案ノ判決ニ對スル公訴ハ判決ノ一部ナルト全部ナルトヲ問ハス不服アル点ニ付キ控訴ヲ爲スヲ得
- 本案前ノ判決ニ對スル控訴ハ本案ノ判決アリタル後本案ノ判決ト共ニスルニ非サレハ之ヲ許サ、ルヲ原則ト爲スモ彼ノ公訴受理ス可カラサル申立ヲ却下スル判決管轄違ノ申立ヲ却下スル判決ニ對シテハ本案ノ判決ヲ待タス直ニ控訴ヲ爲スヲ得蓋シ是等ノ判決ハ本案前

ノ判決ナルモ本案ノ判決ニ影響スル甚大ナルヲ以テ獨立シテ控訴ヲ爲スヲ許シタルナリ

○第七號 控訴申立ノ期間如何(三五)

控訴申立期間ハ判決言渡アリタル翌日ヨリ起算シテ五日內トス是レ對席判決ニ對スル控訴ニシテ而モ重罪、輕罪、違警罪ニ付キ毫モ差別アルヲ無シ闕席判決ニ對シテハ故障ノ期間內故障ノ申立ヲ爲サスシテ控訴ヲ爲スヲ得即罰金以下ノ刑ノ言渡又ハ私訴ノ言渡ニ對シテハ判決ノ送達アリタルヨリ三日內又ハ判決言渡アリタルヨリ五日內(闕席判決ナリトテ普通ノ控訴期間內ニ控訴權ヲ失フ道理ナケレハ判決言渡ノ日ヨリ五日內ニ控訴ヲ爲スヲ得)ニ控訴ヲ爲スヲ得可ク禁錮以上ノ刑ノ言渡ニ對シテハ被告人自ラ判決ノ送達ヲ受ケ又ハ判決ノ執行ニ因リ刑ノ言渡アリタルヲ知リタルヨリ三日內ニ控訴ヲ爲



スコヲ得

此期間ヲ徒過シタル後控訴ノ申立ヲ爲スモ原裁判所ニ於テ決定ヲ以テ直ニ其申立ヲ却下ス可キナリ此決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得(三五)

○第百八號 控訴申立ノ效果如何(三五)

控訴ノ申立アリタルキハ判決ノ確定ヲ防止シ從テ其執行ヲ停止スルモノトス蓋シ刑ノ執行ハ財産刑ヲ除ク外ハ總テ補償ス可カラサルヲ以テ其判決執行ハ判決ノ確定スルニ非サレハ爲スコトヲ許サ、ルモノトス故ニ刑ノ執行ハ民事ニ於ケル如ク仮執行ヲ命スルヲ無シ是レ本案ノ判決ニ對スル控訴ノ效果ナリ公訴受理ス可カラサル申立又ハ管轄違ノ申立ヲ却下スル判決ニ對シ直ニ控訴アリタルキハ本案ノ辯論ハ其控訴ノ判決確定ニ至ルマテハ之ヲ停止スル效果ヲ生ス其理由ハ

右等本案前ノ判決ニ對シ控訴ノ申立アリタルニ拘ハラス尙爾後ノ手續ヲ繼續スルモ若シ其控訴理由アリト判決セラレタルキハ其手續ハ總テ無効ニ歸セサルヲ得サルヲ以テ寧ロ爾後ノ手續ヲ停止スルニ如カスト云フニ在リ

○第百九號 附帶控訴ヲ許ス理由如何(三五)

附帶控訴トハ如何

本問ニ答フルニ先チ附帶控訴トハ如何ナル控訴ナルカヲ一言セサル可カラズ附帶控訴トハ控訴期間内ニ控訴ノ申立アリタルキ其對手人ニ於テ控訴期間内ハ勿論期間經過後ト雖モ原判決ノ不服ナル点ニ就キ控訴ヲ爲スコトヲ得此控訴ヲ稱シテ附帶控訴ト云フ

今此附帶控訴ヲ爲スコトヲ許シタル理由ヲ案スルニ訴訟當事者ハ判決言渡ニ對シ多少不服ヲ有スルモ其不服著大ナラサルキハ之ニ對シ控訴ヲ爲シ日子ト費用トヲ要センヨリ寧ロ利害ノ比較上其裁判ニ服從



スルニ若カストシテ控訴ヲ爲サ、ル者少シトセス然ルニ其對手人ニ於テ控訴ヲ爲シタルキハ最早ヤ日子ト費用トヲ省カントスルノ希望ハ空想ニ歸セサルヲ得サルヲ以テ縱令ヒ些少ノ不服タリモ之ニ對シテ控訴ヲ爲シ満足ノ裁判ヲ受ケンコトヲ望ムハ蓋シ正當適理ナリトス故ニ法律ハ訴訟當事者ノ一方カ控訴ヲ爲シタルキハ其對手人ハ控訴ノ判決アルマテ何時ニテモ附帶控訴ヲ爲スコトヲ許セリ

被告人ハ附帶控訴ヲ爲スル乎

附帶控訴ヲ許シタル理由其レ如斯ト雖モ此利益ハ被告人ト檢事トニ付平等ナルコト能ハス何トナレハ被告人カ控訴ヲ爲シタルキハ控訴裁判所ニ於テ縱ヒ原判決ハ輕キニ失スルモノナリト信スルモ之ヲ被告人ノ不利益ニ改ムルコト能ハサルモ檢事ヨリ附帶控訴アルキハ被告人ノ不利益ニ原判決ヲ改ムルコトヲ得可キナリ故ニ此場合ニ檢事ハ附帶控訴ヲ爲ス利益アリ然レモ檢事カ控訴ヲ爲シタルキハ檢事ハ元來法

律ヲ正當ニ適用セラレ偏重偏輕ナカラシコトヲ期スルモノナレハ控訴裁判所ハ眼中唯一ノ道理アルノミニシテ敢テ被告人ノ利不利ヲ顧念スルコトナシ故ニ被告人ニ於テ附帶控訴ヲ爲サ、ルモ控訴裁判所ニ於テ被告人ノ利益ニ判決ス可キモノト信スルキハ尙ホ其利益ニ判決ヲ下スコトヲ得可ケレハ被告人ハ進テ附帶控訴ヲ爲スノ要ナキナリ然レモ私訴ニ關スル判決ニ付テハ原被告共ニ附帶控訴ノ利益ヲ受クルモノトス

○第一百十號 主タル控訴消滅スルキハ附帶控訴ハ如何ナル效果

ヲ受クル乎

附帶控訴カ普通ノ上訴期間後ニ爲サレタルキ

普通ノ控訴期間後ニ爲サレタル附帶控訴ハ專ラ主タル控訴アリタルカ爲メ不服アル裁判ニ曲從スルヲ欲セス提起シタルモノナレ



ハ其成立ハ一ニ主タル控訴ノ成立ニ因ルナリ故ニ主タル控訴カ受理ス可カラストシテ棄却セラレタル場合ノ如キハ附帶ノ控訴モ亦從テ成立セス要スルニ此場合ノ附帶控訴ノ運命ハ一ニ主タル控訴ノ運命ト消長ヲ同フスルナリ

附帶控訴カ普通ノ控訴期間内ニ提出セラレタルハ

附帶ナル文字ヨリ見ルハ附帶控訴ハ常ニ主タル控訴ニ從屬シテ其運命ヲ共ニスルカ如シト雖モ素ヨリ主從ノ別アルニ非ラス當事者ノ一方カ控訴ヲ爲シタル後他ノ一方ヨリ起シタル控訴ヲ附帶控訴ト稱スルニ過キサレハ若シ其附帶控訴カ普通控訴期間内ニ提起セラレタルハ縦合他ノ一方カ主タル控訴ヲ提起セサリシト雖モ其附帶控訴ハ獨立シテ提起シタルヤモ知ル可カラサレハ主タル控訴ノ消滅ニ因リ共ニ消滅セシムルハ控訴人ノ意思ヲ害スルヲ甚

シト云フ可シ換言セハ普通ノ控訴期間内ニ起シタル附帶控訴ハ他ノ一方ノ控訴ニ後レテ提出シタルニ止マリ元來獨立ノ控訴タル效カヲ有スルモノナレハ他ノ一方ノ控訴ノ運命ニ左右セラル、モノニアラス

○第一百十一號 控訴ハ如何ナル場合ニ如何ナル判決ヲ爲ス可キ

乎(二六〇乃至二六四)

第一 控訴期間ニ後レテ爲シタル控訴 控訴裁判所ハ先ツ控訴カ期間内ニ提起セラレタルヤ否ヲ調査シ若シ期間經過後ニ提起シタル控訴ナルハ判決ヲ以テ控訴ヲ棄却ス可キナリ元來期間經過後ニ係ル控訴ハ原裁判所ニ於テ決定ヲ以テ控訴ヲ棄却ス可キモ原裁判所カ之ニ心付カスシテ事件ヲ送致シタルハ控訴裁判所ニ於テ棄却ノ判決ヲ爲ス可キナリ



第二 控訴ノ理由ナキハ理由ナキ控訴ハ判決ヲ以テ之ヲ棄却スヘキナリ

第三 控訴理由アルキ 控訴ニ理由アルキハ即原判決ノ不當ナル場合ナルヲ以テ原判決ヲ取消シ更ニ控訴裁判所カ正當ト信認スル所ニ據リ判決ヲ爲ス可キナリ若シ地方裁判所カ輕罪トシテ判決シタル事件ヲ控訴院ハ重罪ナリトスルキ又ハ重罪トシテ控訴アリタルキハ其公判ヲ止メ更ニ重罪事件トシテ裁判ス可キ旨ノ決定ヲ爲シ受命判事ヲシテ取調ヲ爲サシメ其報告ヲ得タル後ニ非サレハ原判決ヲ取消シ更ニ重罪トシテ判決スルコトヲ許サルナリ

第四 原裁判所ノ管轄違ナルキ

(イ) 被告人ノ身分犯罪ノ種類犯罪ノ場所等ニ因リ原裁判所ノ管轄ニ屬セサルコトヲ認メタルキハ原判決ヲ取消シ其事件ヲ檢事ニ交付

シ相當ノ處分ヲ爲サシム若シ勾留ヲ要スルモノト認ムルキハ前勾留狀ヲ存シ又ハ新ニ勾留狀ヲ發ス可キナリ此場合ニ控訴ヲ受ケタル裁判所カ地方裁判所ニシテ自ラ其事件ニ付第一審トシテ裁判權ヲ有スルキハ原判決ヲ取消シ更ニ第一審トシテ判決ヲ爲ス若シ其事件重罪ニシテ既ニ豫審ヲ經タルキハ公判ヲ止メ更ニ重罪トシテ裁判ス可キ旨ヲ決定シ受命判事ヲシテ取調ヲ爲サシメ其報告ヲ待テ後公判ヲ開ク又未タ豫審ヲ經サル事件ナルキハ豫審判事ニ送付スル決定ヲ爲ス

(ロ) 原裁判所ニ於テ不當ニ管轄違ヒヲ言渡シタルキハ其判決ヲ取消シ事件ヲ原裁判所ニ差戻ス可キモノトス

第五 訴訟關係人闕席シタル場合

(イ) 控訴申立人ノ闕席シタルキ 控訴申立人カ闕席シタルキハ原



判決ヲ攻撃スル權利ヲ拋棄シタルモノト見做シ本案ノ取調ヲ爲サ  
ス闕席判決ヲ以テ控訴ヲ棄却ス可キナリ

(ロ) 控訴ノ相手方闕席シタル場合 控訴申立人ノ意見ヲ聽キ以上  
第一ヨリ第四マテニ陳ヘタル區別ニ從ヒ闕席判決ヲ爲スヘキナリ  
(附言) 控訴ノ闕席判決ニ對シテ故障ヲ許スヤ否ニ付キ否ト論スル  
說アルモ予ハ第一審ノ判決ト同ク故障ヲ爲スコヲ得可キ者ト信ス

○第百十二號 上告ハ如何ナル判決ニ對シ之ヲ爲スコヲ得ル乎

(三六)

上告ヲ爲スコヲ得可キ判決ハ左ノ二箇ニ過キス

- 第一 第二審ニ於テ爲シタル本案ノ判決
- 第二 第二審ニ於テ爲シタル管轄違ヒ公訴受理ス可カラサル申立ヲ却下スル判決

上告ヲ爲スハ右二箇ノ判決ニ限ルヲ以テ第一審ノ判決ニ對シテハ  
上告ヲ爲スコヲ得ス(舊治罪法ハ第一審ノ判決ニ對スルモ上告ヲ爲  
スコヲ許セリ)又第二ノ場合ヲ除ク外本案前ノ判決及決定ニ對シテ  
ハ第二審ノ本案ノ判決ト共ニスルニ非サレハ上告ヲ爲スコヲ許サ  
ルナリ

○第百十三號 上告ハ如何ナル理由ニ基キ之ヲ爲スコヲ得ル乎

(三六、三九)

上告ハ原判決カ法律ニ違反シタリトノ理由ニ基クニ非サレハ之ヲ許  
サス蓋シ上告ノ制ヲ設ケタルハ法律ノ統一ヲ圖ルノ旨趣ニ出ツルヲ  
以テ事實ハ一ニ第二審裁判所ニ於テ認メタルモノヲ精確ナリト推定  
シ上告審ハ唯原判決ノ法律ニ違反シタルヤ否ヲ審査スルニ止マルモ  
ノトス



原判決カ法律ニ違背シタリト爲スニハ法則ヲ適用セス又ハ正當ナル適用ヲ爲サスシテ不當ニ適用シタル場合ナリトス法律ノ例示スル所則左ノ如シ

第一 規定ニ從ヒ判決裁判所ヲ構成セザリシキ

裁判所ハ制規ノ吏員立會シテ茲ニ初メテ其成立アリト云フ可ク若シ制規ノ吏員立會ナキハ裁判所ハ未タ茲ニ存在セス從テ其判決ハ裁判所ノ判決ト稱スルヲ能ハサルヲ以テ之ニ對シ上告ヲ許スハ當然ナリ

第二 法律ニ依リ職務ノ執行ヨリ除斥セラレタル判事裁判ニ參與シタルキ但忌避ノ申請又ハ上訴ヲ以テ除斥ノ理由ヲ主張シタルモ其效ナカリシキハ之ヲ以テ上告ノ理由ト爲スヲ得ス  
判事カ職務ノ執行ヨリ除斥セラレ、ハ或ル原因ノ爲メ判事カ公平

ナル判決ヲ爲ス能ハサル可シト法律上推定セラル、場合ナルヲ以テ是等ノ判事ハ當然其審判ニ參與スルヲ許サ、ルナリ然ルニ是等ノ判事カ審判ニ參與シタルキハ其裁判ハ偏頗ニ出テタリトノ嫌ナキ能ハサレハ之ニ對シ上告ヲ許スハ寔ニ當然ナリ  
然レモ訴訟當事者ヨリ忌避ノ申請ヲ爲シ除斥ノ理由ヲ主張シタルモ棄却セラレ又ハ棄却ノ判決ニ對シ抗告ヲ爲シタルモ抗告裁判所ニ於テ同ク棄却ノ判決ヲ受ケタル場合ノ如キハ法律上偏頗ノ嫌疑最早存セサルニ由リ上告ノ理由ト爲スヲ得サルナリ

第三 判事忌避セラレ其忌避ノ申請ヲ理由アリト認メタルニ係ラス  
裁判ニ參與シタルキ

判事忌避セラレ忌避ノ理由アリト認メタルキハ判事カ職務ノ執行ヨリ除斥セラレ、場合ト同ク其判決ハ偏頗ニ流レタリトノ嫌ナキ



能ハサルヲ以テ上告ノ原由タル可キナリ

第四 裁判所ニ於テ其管轄又ハ管轄違ヒヲ不當ニ認メタルキ

管轄ヲ不當ニ認ムルトハ管轄裁判所ニ非サル裁判所ニ於テ自ラ管轄ナリト裁判シタル場合ヲ云ヒ管轄違ヲ不當ニ認ムルトハ正當ノ管轄裁判所ニ於テ自ラ管轄違ナリト裁判シタルキヲ云フ

右ノ場合ニ法律ハ一ノ制限ヲ設ケタリ則免訴無罪ノ判決アリタルキハ土地ノ管轄違ヲ理由トシテ上訴ヲ爲スコトヲ許サス是レ土地ノ管轄ハ重ニ被告人ノ利益ヲ圖リ制定シタルモノナレハ犯罪ノ種類ニ因ル管轄ノ如ク公ケノ秩序ニ關スル大ナラサルヲ以テ被告人利益ノ判決アリタル場合ニハ上告ヲ爲スコトヲ許サルナリ(二七〇、二四〇)

第五 法律ニ背キ公訴ヲ受理シ又ハ受理セサルキ

受理ス可カラサル公訴ヲ受理シ判決ヲ爲シタルキハ則審判ス可カ

ラサル事件ヲ審判シタルナリ又受理ス可キ公訴ヲ受理セサルキハ則審判ス可キ事件ヲ審判セサルナリ兩者俱ニ法律ニ違反シタルモノニシテ上告ノ理由タルハ當然ナリ

第六 法律ニ定メタル場合ニ於テ檢事ノ意見ヲ聽カサルキ

檢事ノ意見ハ唯判事又ハ裁判所ノ參考ニ供スル爲メ陳述スルニ過キスシテ其探ルト探ラサルトハ素ヨリ判事又ハ裁判所ノ自由ナリト雖モ法律ハ豫審公判ノ手續中事ノ重大ニ涉ルモノハ檢事ノ意見ヲ聽キタル上斷行シ以テ其專恣ニ流レサランコトヲ力メタリ然ルニ其手續ヲ履マスシテ斷行シタル處分ナルキハ專恣ノ嫌ナキ能ハサルヲ以テ上告ノ原由ト爲ルナリ

第七 裁判所ニ於テ請求ヲ受ケタル事件ニ付判決ヲ爲サス又ハ職權

ヲ以テ判決スルコトヲ得可キ場合ヲ除ク外請求ヲ受ケサル事件ニ付



判決ヲ爲シタルキ

是レ皆専恣ノ處分ニ出ツルヲ以テ上告ノ原由タルコト當然ナリ

第八 判決ヲ公行セス又ハ公開ヲ禁スル言渡無クシテ辯論ヲ公ニセサルキ

審判ノ公行ハ公衆ノ面前ニ於テ裁判所ノ公平無私ヲ表彰シ裁判ノ信用ヲ保タントノ旨趣ナレハ傍聽ヲ禁スルノ言渡無クシテ公判ノ審問辯論ヲ密行シ又ハ判決言渡ヲ公行セサルキハ其審判ハ公平無私ニ出テタリトノ信用ヲ保維スル能ハス是レ其判決ニ對シ上告ヲ許シ公平ノ途ヲ開ク所以ナリ(公安又ハ善良ノ風俗維持ノタメ審問辯論ヲ公行セサルコトヲ得ルモ判決言渡ハ必ス之ヲ公行セサル可カラス(裁構第百三條以下))

第九 裁判ニ理由ヲ付セス又ハ其理由ノ齟齬アルキ

理由ノ齟齬トハ如何

裁判ハ事實ト法律トニ依リ理由ヲ付スルコトヲ要ス即事實上ノ理由ハ犯罪ノ成立ヲ示シ法律上ノ理由ハ其犯罪ヲ罰スル處ノ法律ノ正條ヲ明ニスル所以ナルヲ以テ其理由ノ全部又ハ一部ヲ缺クキハ上告ノ原由タル可シ又一ノ裁判中理由相齟齬スルキハ何レヲ正當ト爲スカ知ルニ由ナケレハ是亦上告ノ理由タルナリ  
理由ノ齟齬ハ事實上ノ齟齬例ヘハ甲ハ乙ノ所有品ナル煙草入ヲ竊取セリ其煙草入ハ曾テ甲ヨリ乙ニ付託シタル品ナリト云フカ如キ場合アリ又法律上ノ齟齬例ヘハ被告ノ所爲ハ正當防衛ニシテ刑法第三百十四條ニ該ルヲ以テ同法第二百九十四條ニ照シ處分ス可キモノナリト言渡スカ如キ場合アリ此他事實上ノ理由ト法律上ノ理由トノ齟齬アリ此場合ハ所謂擬律ノ錯誤ニ屬シ次號ニ示ス所ノモノナリ



(附言) 某學者ハ事實上ノ理由ヲ全ク附セサルキ及其理由不十分ニシテ判決ノ根據ト爲スニ足ラサルキハ共ニ上告ノ原由ト爲スヲ得ルモ法律上ノ理由ノ不十分ナル場合ハ勿論全ク法律上ノ理由ヲ付セサル場合ト雖モ之レノミヲ以テ上告ノ原由ト爲スニ足ラス何トナレハ事實上ノ理由ト判決ト適合スルニ於テハ法律上ノ理由缺如タルモ訴訟當事者ノ利害ニ關係ナケレハナリト論スレモ第二百三條以下ニ判決ハ事實及法律ニ因リ理由ヲ明示ス可キヲ命シタルヲ以テ全ク理由ヲ付セス又ハ不十分ノ理由ヲ付シタルキハ事實上ニ關スルト法律上ニ關スルトヲ問ハス共ニ上告ノ理由爲ル可キモノト信ス

擬律ニ錯誤アルキトハ事實ノ理由ト法律ノ理由ト互ニ支梧抵觸ス

第十 擬律ニ錯誤アルキ

擬律ニ錯誤アルキトハ事實ノ理由ト法律ノ理由ト互ニ支梧抵觸ス

免訴無罪ノ言渡ニ對シハ被告ノ利益ニ違フメタル規定ニ背キタル原由トシテ上告ヲ得ル理由ト如何

ル場合ヲ云フ例ヘハ謀殺ノ事實ヲ認メナカラ故殺ノ法條ヲ適用シ有罪ノ事實ヲ認メナカラ無罪又ハ免訴ノ言渡ヲ爲シ再犯ノ事實ヲ認メナカラ再犯加重ノ法律ヲ適用セサル場合ノ如キヲ云フ以上列記スル場合ハ法律上法律ニ違反シタル裁判ナリトシテ例示シタルニ過キサレハ此他實際法律ニ違反シタリト爲ス可キ裁判アルキハ之ニ對シ上告ヲ爲シ得可キハ勿論ナリ然レモ法律ハ免訴又ハ無罪ノ言渡アリタル判決ニ對スル上告ニ付テハ一ノ制限ヲ設ケタリ則被告ノ利益ノ爲メ設ケタル規定ニ背キタルコト又ハ土地ノ管轄違ヲ以テ上告ノ理由ト爲スヲ許サル是ナリ(土地ノ管轄違ニ付テノ制限ハ前第四號ニ之ヲ説明セリ)

刑事訴訟法ハ國家ト被告人トノ利益ヲ參酌シテ規定シタルモノナレハ其規定ハ多少被告人ノ利益ニ關セサルナシト雖モ其規定中專ラ被



告人ノ利益ニ關シ間接ニ國家ノ利益ニ關スルモノアリ彼ノ被告人ヲシテ最終ニ答辯セシムルヲ(三)重罪事件ニ辯護人ヲ附スル規定ノ如キハ其例ナリトス是等ノ規定ハ無辜ノ被告人ヲシテ冤枉ニ陷ラシメサルヲ目的トスルモノナレハ無罪免訴ノ言渡アリタルキハ縱令ヒ是等ノ規定ニ違反スルモ被告人ハ十分辯護權ヲ振揮シタリト推定スルヲ得レハ最早此法律違反ヲ理由トシテ上告ヲ爲ス利益存セサルナリ

私訴ノ判決ニ付キ上告ヲ爲ス場合モ以上ノ原由ト同一ニシテ敢テ差異アルヲ無シ唯一ノ注意ス可キハ第五號ニ法律ニ背キ公訴ヲ受理シ又ハ受理セサル<sub>ル</sub>トアルヲ法律ニ背キ私訴ヲ受理シ又ハ受理セサル<sub>ル</sub>ト改メ讀ム<sub>ル</sub>是ナリ

### ○第百十四號 上告申立人趣意書ヲ差出サ、ルキハ上告ハ如何

ナル結果ヲ來タス乎

上告ヲ爲サントスルキハ三日内ニ上告申立書ヲ差出シ其申立ヲ爲シタル日ヨリ五日内ニ上告趣意書ヲ差出ス可キ規定ナルヲ以テ上告申立書ヲ差出スモ期限内ニ趣意書ヲ差出サ、ルキハ期限經過後ノ上告ト爲シ原裁判所ニ於テ決定ヲ以テ其上告ヲ棄却ス可キ乎曰ク否上告ハ其申立書ヲ原裁判所ニ差出ストニ因リ成立スルヲ以テ趣意書ヲ提出スルト否トハ上告ノ成否ニハ關係ナシ故ニ原裁判所ニ於テ其上告ヲ棄却セスシテ相當ノ手續ニ依リ其事件ヲ上告裁判所ニ送付セサル可カラズ

然レモ上告ハ一定ノ原因ニ由ルニ非サレハ之ヲ爲スト能ハサルヲ以テ上告申立書ヲ差出シタルノミニテハ其果テ何レノ原因ニ據リ上告ヲ爲シタルカヲ知ルニ由ナク從テ上告ノ當否ヲ判斷スルヲ能ハサル



ハ上告裁判所ハ別ニ其事件ノ取調ヲ爲サス直ニ棄却ノ判決ヲ爲ス可  
キモノトス元來上告ハ上告申立書ト上告趣意書トヲ各別ニ差出スヲ  
通常ノ手續ト爲セ凡若シ上告申立人此手續ニ依ラスシテ上告申立書  
中ニ上告ノ理由ヲモ辯明シタルキハ別ニ趣意書ヲ差出サ、ルモ上告  
ノ理由己ニ明ナルヲ以テ上告裁判所ハ之ニ依リ其理由ノ當否ヲ判斷  
セサル可カラス

○第一百十五號 被告人ハ上告裁判所ニ出頭シテ辯明ヲ爲スヲ得ル乎

上告裁判所ハ法律適用ノ當否ヲ審案スルニ止ルヲ以テ被告人自ラ上  
告裁判所ニ出頭辯明スルモ十分ノ利益アルヲ無ク且法律ニ通曉セサ  
ル者出頭辯明ヲ爲スハ徒ニ時日ヲ空費スルノミニテ要領ヲ得サル  
ノ弊害アルヲ免レサルヲ以テ被告人自身ノ出頭ハ之ヲ許サ、ルナリ

然レモ被告人ハ上告趣意書等ノ書面ノミニテ十分ノ上告旨趣ヲ貫徹  
セシムルヲ能ハストスルキハ辯護士ヲ差出シ辯明ヲ爲サシムルヲ  
得レ辯護士ハ法律ニ通曉スルモノナルニ因リ本人自身出頭シテ辯  
明ヲ爲ス如キ弊害アルヲ無ケレハナリ殊ニ重罪ノ言渡ヲ受ケタル被  
告人上告ヲ爲シ又ハ檢事ヨリ重罪ノ刑ニ該ルヘキモノトシテ上告ヲ  
爲シタル場合ニ被告人ニ於テ辯護士ヲ選任セサルキハ上告裁判所長  
ハ職權ヲ以テ其裁判所所屬ノ辯護士中ヨリ辯護士ヲ選任セサル可カ  
ラス是レ重罪事件ニ付第一審及第二審ニ於テ被告人自ラ辯護士ヲ選  
任セサルキハ裁判長ノ職權ヲ以テ辯護士ヲ選任スルト同一理由ニ基  
クナリ(二七九)

上告裁判所ハ元來被告人自身ノ出廷ヲ許サ、ルカ故ニ第一審及第二  
審ノ判決ニ於ケル如ク闕席判決ヲ爲ス可キ場合アルヲ無シ



○第一百十六號 上告裁判所ハ如何ナル場合ニ如何ナル判決ヲ爲

ス可キ乎

第一 上告棄却ノ判決(二五、二六)

(一) 期間内ニ起サ、ル上告 上告ハ判決言渡ノ日ヨリ三日内ニ之ヲ申立テサル可カラス若シ其期限ヲ過キ申立テタル上告ナルキハ原裁判所ニ在テハ決定ヲ以テ上告ヲ棄却シ原裁判所カ棄却ス可キ上告ヲ誤テ上告裁判所へ送付シタルキハ上告裁判所ニ在テハ判決ヲ以テ之ヲ棄却ス可キモノトス

(二) 法律ノ方式ニ從ハサル上告 例ヘハ上告趣意書ヲ差出サ、ルキ又ハ上告申立書ニ年月日ヲ記載セス若クハ上告申立人ノ署名捺印等ヲ缺クキノ如キハ方式ニ從ハサル上告ナルヲ以テ之ヲ棄却ス可キモノトス

(三) 上告ハ理由ナキキ 上告ハ原判決カ法律ニ違反スルヲ理由トスルニ非サレハ之ヲ許サ、ルヲ以テ原判決ニ法律違反ノ點ナキキハ之ヲ棄却ス可キモノトス

第二 原判決破毀ノ判決(二八)

上告理由アリトスルキ即原判決カ法律ニ違反シタルモノナルキハ上告ニ係ル判決ノ部分ヲ破毀ス可キナリ若シ判決ノ一部ニ對シ上告アリテ其判決ヲ破毀スルキハ其破毀ノ部分カ上告ヲ爲サ、ル判決ノ部分ニ關係アルキハ其部分ヲモ破毀ス可キナリ(二九)

右ノ場合ニ上告裁判所ハ原判決ヲ破毀スルニ止マラス尙左ノ處分ヲ爲サ、ル可カラス

(二) 上告裁判所ハ唯原判決ノ法律適用ノ當否ヲ審査スルニ止マルヲ以テ事實ノ審査ヲ要スル場合ハ之ヲ事實裁判所へ移シ更ニ審判



ヲ爲サシメサル可カラス故ニ此場合ハ原判決ヲ破毀スルト同時ニ  
 事件ヲ原裁判所ニ接近シタル同等ノ他ノ裁判所ニ移ス可キ者トス  
 (三) 擬律ノ錯誤アルキ又ハ法律ニ背キ公訴ヲ受理シタル場合ハ更  
 ニ事實ノ審査ヲ要セサルヲ以テ原裁判所カ認メタル事實ニ因リ上  
 告裁判所ハ直ニ相當ノ判決ヲ爲ス可キナリ即擬律ノ錯誤ノ場合ハ  
 相當ノ法律ヲ適用シテ處分シ又法律ニ背キ公訴ヲ受理シタルキハ  
 公訴ヲ受理ス可キモノニ非ストシテ被告ニ對シ直ニ免訴ノ言渡ヲ  
 爲ス可キナリ(三六七)

(三) 公判ノ手續ニ違反スル点アリテ其違反カ後ノ手續ノ利害ニ影  
 響ヲ及ホサ、ルキハ法律ノ威嚴ヲ保ツタメ單ニ違法ナル手續ヲ破  
 毀スルニ止マルモノトス例ヘハ法定ノ猶豫ヲ與ヘスシテ證人ヲ呼  
 出シタルニ付異議ノ申立アリタルモ之ヲ却下シタル違法アル場合

ノ如キ是ナリ(三六八)

○第七十七號

共同被告人ノ一人カ上告ヲ爲シ其被告人カ受ケ  
 タル判決ハ他ノ共同被告人ニ利害ヲ及ホス場合  
 アル乎(三六九)

抑モ判決ハ訴訟當事者ニ對スルニ非サレハ其威力ヲ有スルヲ能ハサ  
 ルヲ原則トス故ニ本問ニ於テモ上告ヲ爲サ、ル他ノ共同被告人ニ利  
 害ノ關係ヲ及ホス場合ナシト云ハサル可カラサルカ如シ然レモ法律  
 ハ此原則ニ一ノ例外ヲ設ケタリ即左ノ如シ  
 擬律ノ錯誤又ハ法律ニ背キ公訴ヲ受理シタルニ因リ被告人ノ利益ノ  
 爲メ判決ヲ破毀シタルキハ其利益ハ上告ヲ爲サ、ル共同被告人ニモ  
 及ホスモノトセリ蓋シ擬律ノ錯誤又ハ法律ニ背キ公訴ヲ受理シタル  
 ニ因リ被告人ノ利益ノ爲メ判決ヲ破毀スル場合ハ必ス法律ニ於テ罰



擬律ノハ錯  
誤又ハ法  
律ニ背キ  
公訴ヲ受  
理シタル  
ニ因リ破  
告人ノ利  
益ノ爲メ  
判決ヲ破  
毀スルハ  
ハ常ニ上  
告ヲ爲サ  
サル共ニ  
被告ノ利  
益ヲ及  
ホス乎

セサル所爲ニ對シ刑ヲ言渡シ又ハ相當ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡シタル  
場合ニシテ即非常上告ヲ爲スコトヲ得可キ場合ナリ此場合ニ於テ共同  
被告人ノ一人ニ言渡シタル判決ノ利益ヲ他ノ共同被告人ニ及ホサス  
トスルキハ非常上告ノ手續ニ因リ更ニ原判決ヲ破毀スルノ二重手續  
ヲ要スルヲ以テ非常上告ヲ待タス直ニ共同被告人ノ一人カ受ケタル  
判決ノ利益ヲ得セシムルナリ  
右ノ場合ニ共同被告人ノ一人カ受ケタル利益ノ判決ハ必ス他ノ共同  
被告人ニ及ホスモノナリト速了ス可カラズ即共同被告人中特ニ其身  
分ニ因リ無罪又ハ減輕ノ理由アル爲メ原判決ヲ破毀シタルキハ其利  
益ハ上告ヲ爲サ、ル他ノ共同被告人ニ及ホサス例ヘハ上告ヲ爲シタ  
ル被告人ハ幼者ナルニ原判決ハ減等ヲ爲サ、リシ爲メ破毀セラレタ  
ル場合ノ如キ是ナリ

○第一百十八號 抗告ノ性質ヲ述ヘヨ(二三)

抗告ハ裁判所又ハ豫審判事ノ處分シタル決定ニ對シ爲ス處ノ上訴ニ  
シテ事實上法律上ノ不當ニ對シ共ニ之ヲ爲スコトヲ得然レモ之ヲ爲ス  
ニハ法律カ特ニ抗告ヲ爲スコトヲ許シタル場合タラサル可カラズ即第  
百十八條第百二十六條第百三十八條第百七十二條第百五十五條第  
二百七十六條是ナリ

抗告ハ事實ノ認定及法律適用ノ不當ヲ更正セシムルコトヲ得ル点ヨリ  
見ルキハ控訴ト其性質酷ク相肖タルカ如シト雖モ控訴ハ第一審ノ本  
案ノ判決又ハ本案ノ成否ニ關係アル本案前ノ判決ニ對スル上訴ナル  
モ抗告ハ豫審中ナルト公判中ナルト又第一審ト第二審トヲ問ハス豫  
審判事又ハ裁判所ノ或ル決定ニ對シ直近上級裁判所ニ爲ス上訴ナル  
ヲ以テ大ニ其性質ヲ異ニセリ



○第一百十九號 抗告ト控訴トノ異同如何

第一 抗告ハ裁判所又ハ豫審判事ノ決定ニ對シ法律ニ於テ特ニ抗告ヲ許ス可キ規定アル場合ニ限り之ヲ爲スコトヲ得ルモ控訴ハ第一審ノ判決ニ對スルキハ常ニ之ヲ爲スコトヲ得

第二 抗告ノ判決ニ對シテハ抗告申立人ヨリ更ニ抗告ヲ爲スコトヲ得サルモ控訴ノ判決ニ對シテハ上告ヲ爲スコトヲ得

第三 抗告ハ原裁判ヲ爲シタル裁判所又ハ豫審判事ニ於テ其抗告ヲ理由アリトスルキハ不服ノ点ヲ更正シ若シ理由ナシトスルキハ意見ヲ付シテ抗告裁判所へ送致ス可キモノナルモ控訴ニハ如斯規定アルヲ無シ

第四 抗告ノ申立ハ裁判ノ送達アリタルヨリ三日内ニ之ヲ爲サハル可カラサルモ控訴ノ申立ハ判決ノ言渡ヨリ五日内ニ之ヲ爲ス可キ

モノトス

第五 抗告ト控訴ト同一ナル点ハ共ニ事實法律ヲ審査スルニ在リ然レモ一ハ口頭辯論ヲ經ルヲ原則ト爲スモ一ハ單ニ書面ニ就テ審査スルニ止マルモノトス

○第一百二十號 非常上告ハ如何ナル場合ニ之ヲ爲スコトヲ得可キ乎  
又何人ヨリ何レノ裁判所ニ何時之ヲ爲ス可キ乎

非常上告ハ確定判定ノ效力ヲ消滅セシムル所ノ非常上訴ノ一ナルヲ以テ左ノ條件ヲ具備スルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス(二五二)

非常上告ノ制度ヲ設ケタル理由如何

(一) 法律ニ於テ罰セサル所爲ニ對シ刑ヲ言渡シ又ハ相當ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡シタル判決ニ對スルコト

法律ニ於テ罰セサル所爲ニ對シ刑ヲ言渡シタル判決及相當ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡シタル判決ハ共ニ被告人ノ冤枉ニ陥リタル場合ナ



ルヲ以テ國家ハ之カ救濟ヲ懈ル可カラス是レ非常上告ノ設ケアル所以ナリ故ニ非常上告ハ常ニ被告人ノ利益ノ爲メニ爲スモノニテ國家ハ只間接ニ利益ヲ受クルノミ

法律ニ於テ罰ス可キ所爲ニ對シ刑ヲ言渡サス又ハ相當ノ刑ヨリ輕キ刑ヲ言渡シタルキハ右ト同ク非常上告ヲ許シ相當ノ刑ヲ言渡シ攪亂セラレタル秩序ヲ維持スル必要アルカ如シト雖モ之ヲ許スルハ被告人ノ既得權ヲ害シ且國家ノ過失ニ因リ被告人ニ不利益ヲ被ラシムルノ不當アルヲ以テ非常上告ヲ許サ、ルナリ何ヲカ被告人ノ既得權ヲ害スト云フ曰ク被告人ハ確定シタル判決ニ因リ更ニ刑ノ言渡ヲ受クルヲ無ク又既ニ言渡サレタル刑ヨリ更ニ重キ刑ヲ言渡サルヲナシトノ權利ヲ得ルナリ然ルニ後ニ至リ之ヲ其不利益ニ更正スルヲ許サハ其既得權ヲ害スルモノト云ハサルヲ得ス何ヲカ

國家ノ過失ニ因リ被告人ニ不利益ヲ被ラシムト云フ曰ク檢事ハ國家ヲ代表シ公訴權ヲ行フモノナレハ原判決不當ナリセハ通常上告ノ道ヲ盡シ之ヲ矯正セサル可カラス然ルニ檢事ハ是レ之ヲ盡サスシテ其判決ヲ確定セシメタルハ檢事即國家ノ過失ナリ此過失ノ爲メ判決ヲ確定ニ至ラシメタル後之ヲ更正シ被告人ノ不利益ト爲スハ即國家ノ過失ニ因リ被告人ニ不利益ヲ蒙ラシムルモノト云ハサル可カラス

〔附言〕 法文ニ法律ニ於テ罰セサル所爲ニ對シ刑ヲ言渡シ云々トアルヲ以テ免訴ノ言渡ヲ爲ス可キ所爲ニ對シ刑ノ言渡ヲ爲シタル場合ハ非常上告ヲ爲スヲ得ス何トナレハ免訴ヲ爲ス可キ場合ハ元來法律ニ於テ罰ス可キ所爲ナルモ或ハ原因ニ因リ免訴ヲ爲ス可キモノナレハ法律ニ於テ罰セサル所爲ト云フ可カラサルヲ以テナリ



ト論スルモノアルモ予ハ法律ニ於テ罰セサル所爲トハ法律ニテ刑罰ヲ當行シ現實處罰セサル所爲ト解シ是等ノ場合モ亦非常上告ヲ爲シ得可シト信スルナリ

(三) 第一審又ハ第二審ノ判決ニシテ期間内上訴スル者無ク其判決確定シタルコト

上訴ノ方法ヲ盡シ終リタルキハ法律ニ於テ罰セサル所爲ニ刑ヲ言渡シ又ハ相當ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡スカ如キコトナシト推定シ非常上告ヲ許サ、ルナリ換言セハ上告裁判所ハ法律上ノ裁判ニ付テハ尤モ精覈ニシテ敢テ擬律ヲ錯誤スルカ如キコト無シトノ推定ニ基ケルナリ然レモ實際ヲ見ルキハ大審院ニ於テモ或ル所爲ニ付キ前ニ有罪ト爲シタル判例ヲ翻シ後ニ至リ無罪ナリトスルコトアリ是等ノ場合ハ特赦ヲ以テ被告人ヲ救済スルノ外ナキナリ

非常上告ヲ爲ス可キ人及其裁判所ハ左ノ如シ

其事件ニ付キ上告ヲ受ク可キ裁判所ノ檢察(區裁判所ノ權限ニ屬スル事件ニ付テハ控訴院ノ檢察地方裁判所ノ權限ニ屬スル事件ニ付テハ大審院ノ檢察)カ職權ヲ以テ又ハ司法大臣ノ命ニ因リ其檢察ノ屬スル裁判所即其事件ニ付キ上告ヲ受ク可キ裁判所ニ非常上告ヲ爲ス可キモノトス故ニ非常上告ハ被告人又ハ他ノ訴訟關係人ハ之ヲ爲スコトヲ得ス是レ之ヲ許スキハ猥リニ非常上告ヲ提起シ刑ノ執行ヲ遲延セシメントスルノ弊アルヲ免レサレハナリ(非常上告ノ效果ハ刑ノ執行ヲ停止セサルモ死刑ノ如キハ勢ヒ其執行ヲ停止セサルヲ得ス)加之非常上告ハ唯法律適用ノ不當ヲ原由トスルニ止マルヲ以テ常ニ法律ノ適用ヲ監視スル所ノ檢察ニ許スヲ以テ足レリトノ理由ニ基クナリ  
非常上告ヲ申立ツヘキ時期ハ其判決確定後ニ係ルキハ何時ニテモ之



ヲ申立ツルコトヲ得判決確定前ニ係ルキハ普通上訴ヲ爲スコトヲ得ルヲ以テ非常上告ヲ爲ス要ナキナリ  
非常上告ハ刑ノ消滅シタル後ト雖モ被告人ノ名譽ノ爲メ之ヲ申立ツルコトヲ得故ニタトヒ被告人死亡後ニ係ルモ尙之カ申立ヲ爲スコトヲ得可シト云ハサル可カラス

○第百廿一號 再審ノ訴ノ性質及之ヲ爲スニ要スル條件ヲ説明

セヨ(三二)

再審トハ確定シタル判決ニ事實上ノ錯誤アルコトノ大ナル嫌疑存スル  
度ヲ設ケ  
タル理  
由  
如何  
再審トハ確定シタル判決ニ事實上ノ錯誤アルコトノ大ナル嫌疑存スル  
片其判決ノ破毀ヲ求ムル訴ニシテ非常上告ト同ク一事不再理ノ大原則ニ抵觸シ確定判決ノ效力ヲ打破スル所ノ上訴ナリ抑モ刑事訴訟ノ最大主眼ハ無辜ヲ罰セス有罪ヲ漏サ、ルニ在ルヲ以テ今判決ニ誤謬アルノ重大ナル嫌疑アルニ拘ハラヌ之カ救濟ノ道ヲ開カスンハ此大

主眼ヲ達スルコト能サル可シ故ニ再審ノ訴ハ一事不再理ノ原則ニ戻ルノ不理ハ猶無辜ヲ罰スルノ非道ニ優ルモノトシテ設ケタル之蓋シ至當ノ法ト云フ可シ然レモ再審ノ訴ハ到底不理ノ分子ヲ含有スルヲ免レサルヲ以テ猥リニ之ヲ許ス可カラス故ニ法律ハ嚴平タル制限ヲ設ケ苟モ左ノ條件ヲ具備スルニアラサレハ之ヲ提起スルコトヲ許サス  
第一 重罪輕罪ノ刑ノ言渡ニ對スルコト

違警罪ノ刑ハ被告人ノ名譽ヲ害シ被告人ニ苦痛ヲ與フルノ度甚微少ナルヲ以テ確定判決ノ效力ヲ破リ其刑ヲ取消ス程ノ價值ナシト爲シタルナリ此點ヨリ見ルキハ單ニ罰金ノ刑ノ言渡ニ付テモ亦再審ヲ許サ、ルヲ以テ至當ト爲サ、ル可カラス彼ノ非常上告ハ違警罪ノ刑ノ言渡ニ付テモ尙之ヲ許シタル点ヨリ見ルキハ名譽ヲ害スルコト僅少ニ苦痛ヲ與フルコト輕微ナル違警罪ノ刑ニ付テモ尙確定判



決ヲ破ルノ必要アリト爲シタルカ如ク法律ノ精神彼是相抵觸スル  
カ如シト雖モ非常上告ハ唯書類ニ就キ原判決ノ法律適用ノ當否ヲ  
監査シ果シテ不當アルキハ直ニ原判決ヲ取消シ相當ノ判決ヲ爲ス  
ヲ以テ毫モ被告人ニ煩累ヲ及ホサ、ルモ再審ノ訴ハ其原由アリト  
スルキ原判決ヲ破毀シ更ニ原判決ヲ爲シタル裁判所ト同等ナル他  
ノ裁判所ニ其事件ヲ移シ普通ノ手續ニ從ヒ事實ノ覆審ヲ爲サシム  
可キモノナレハ煩雜ノ手數ヲ要シ其失フ所其益スル所ヲ償ハサル  
ヲ以テ寧ロ再審ヲ許サ、ルニ如カスト爲シタルナリ

第二 被告人ノ利益ノ爲メニスル

被告人ハ確定判決ノ效力ニ因リ更ニ同一事件ニ付キ訴ヲ受ケサル  
ノ既得權ヲ有スルヲ以テ再ヒ其不利益ニ訴訟ヲ提起スルヲ許サ  
、ルナリ(前問參照)

第三 判決ノ確定シタル

判決確定前ナルキハ普通上訴ノ方法ニ因リ其判決ヲ匡正ス可キニ

再審ノ訴  
何ノ原由如

第四 判決ニ誤謬アル嫌疑ニ付キ法律ニ特定シタル事實アル

再審ノ訴ハ非常手段ナルヲ以テ判決ニ誤謬アルヲ殆ント明白ナル  
場合ニ非サレハ之ヲ許サス即法律ノ特定シタル場合左ノ如シ

(一) 人ヲ殺シタル罪ニ付刑ノ言渡アリタルモ其殺サレタリト認め  
ラレシ者犯罪後生存シ又ハ犯罪前既ニ死去シタル確證アリタルキ  
殺人犯ハ人ノ生命ヲ奪フヲ以テ一條件ト爲スニ依リ被殺者ト認  
メラレタル者其犯罪以後ニ猶生存スルノ確證アルカ又ハ其犯罪以  
前既ニ死去シタルノ確證アルキハ被告人ノ所爲ニ因リ其人ノ生命  
ヲ奪フタルニ非サルヲ明白ナルヲ以テ其判決ニ誤謬アルノ大ナ  
ル嫌疑アル場合ナリトス



(三) 同一ノ事件ニ付共犯ニ非スシテ別ニ刑ノ言渡ヲ受ケタル者アリタルキ

同一ノ事件ニ付共犯者ニ非スシテ別ニ刑ノ言渡ヲ受ケタル者アリタルキハ其ニケノ判決中其一ハ必ス誤判アルヲ免レス故ニ此場合ハ其ニケノ判決共ニ再審ノ訴ヲ以テ破毀シ更ニ審判セサル可ラス

(三) 犯罪アル以前ニ作リタル公正證書ヲ以テ當時其場所ニ在ラサルヲ證明シタルキ  
公正證書トハ公證人ノ作リタル證書ノミナラス相當ノ官吏、公吏ニ因リ作ラレタル證書ヲモ包含ス是等ノ證書ハ偽述ノ申立アルニ非サレハ完全ノ證據力ヲ保有スル確實ノモノナルヲ以テ之ニ因リ犯罪ノ當時其場所ニ在ラサルヲ證明シタルキハ其犯罪ハ被告人ノ所爲ニ非サリシコノ重大ナル疑ナキ能ハス

(四) 被告人ヲ陷害シタル罪ニ因リ刑ノ言渡ヲ受ケタルモノアリタルキ  
此場合ハ被告人ヲ陷害スルタメ偽證又ハ賄賂收受等ノ罪ヲ犯シ刑ノ言渡ヲ受ケタル者アルキ等ヲ云フ是等ノ場合ハ被告人カ冤枉ニ

陥リタルコノ重大ナル疑アルモノト云ハサル可カラス  
(五) 公正證書ヲ以テ訴訟記録ニ偽造又ハ錯誤アルヲ證明シタルトキ  
是レ前段ト同ク被告人カ冤枉ニ陥リタルコノ重大ナル疑アルモノト云ハサル可カラス

(六) 判決ノ憑據ト爲リタル民事上ノ判決カ他ノ確定ト爲リタル判決ヲ以テ廢棄若クハ破毀セラレタルキ  
是亦前段ト同様ニシテ別ニ説明ヲ要セス茲ニ廢棄トアルハ控訴審



又ハ抗告審ニテ原判決ヲ取消シタル場合ヲ云ヒ破毀トハ上告審ニテ前判決ヲ取消シタル場合ヲ云フ

再審ノ訴ヲ爲シ得可キハ以上六ヶノ原因アルキニ限ルヲ以テ此他原判決ニ錯誤アルコトヲ疑フ可キ確實ナル事實アルモ再審ノ原因ト爲スコトヲ得ス例ヘハ竊盜罪ニ因リ處分ヲ爲シタル後其盜奪セラレタル物件被害者方ニテ發見セラレタルトキノ如キハ誤判アルコトヲ疑フニ足ル可シト雖モ再審ノ訴ヲ爲スコトヲ得ス而シテ立法者ハ何故ニ斯ル事實ヲ以テ再審ノ原因トシテ列舉セサリシカヲ考フルニ蓋シ是等ノ事實ハ被告人ト被害者ト私和ヲ爲シ容易ニ捏造スルコトヲ得可キモノナレハナリ

○第百廿二號 再審ノ訴ハ何人ヨリ何レノ裁判所ヘ何時之ヲ爲ス可キ乎

再審ノ訴ハ事實ノ錯誤ヲ理由トスルヲ以テ其錯誤ヲ發見スルハ法律適用ノ錯誤ノ如ク檢事獨リ能ク之ヲ詳悉スル所ニ非サレハ法律ハ博ク左ノ者ニ之ヲ提起スルコトヲ許セリ(三〇二)

第一 刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢事

第二 刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ヲ管轄スル控訴裁判所ノ檢事

第三 刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ヲ管轄スル上告裁判所ノ檢事

檢事ハ常ニ法律適用ノ當否ヲ監視スル者ナルヲ以テ社會ノ爲メナルト被告人ノ爲メナルトヲ問ハス苟モ裁判ニ不當アルコトヲ發見シタルキハ法律ノ許ス限リ之ヲ匡正スルノ任アルニ因リ是等ノ檢事ハ再審ノ訴ヲ爲スノ權義アルモノトス而シテ上告裁判所ノ檢事ハ司法大臣ノ命ニ因リ再審ノ訴ヲ爲ス場合ト職權ヲ以テスル場合トアリ蓋シ司法大臣ハ司法事務ヲ主管スルヲ以テ行政上部下ニ隸屬ス



ル所ノ檢事ニ命シ公訴權ヲ行ハシムルコトヲ得此場合ハ檢事ハ必ス其命ニ從ハサル可カラス

第四 刑ノ言渡ヲ受ケタル者

第五 刑ノ言渡ヲ受ケタル者死去シタルキハ其親屬

再審ノ訴ハ以上列記スル五ケノ人ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス或論者ハ上訴通則ニ辯護士及被告人ノ法律上ノ代理人ニ上訴ヲ爲スコトヲ許シタルヲ以テ是等ノ者モ再審ノ訴ヲ爲スコトヲ得可シト論スレモ予ハ非常上告及再審ノ訴ヲ爲シ得可キ者ハ特ニ法律カ規定スルヲ以テ通則ヲ適用スルヲ得スト信ス又被告人ノ親屬ナキ場合ニ被告人カ再審ノ訴ヲ爲スコトヲ他人ニ委任シテ死去シタルキ其受遺囑者ニ再審ノ訴ヲ爲スコトヲ許ス可シト論スレモ立法上ノ議論トシテハ首肯スルモ成法ノ解釋トシテハ同意スルコト能ハサルナリ

再審ノ訴ヲ判決スル裁判所ハ上告裁判所ナリトス而シテ被告人又ハ被告人ノ親屬ヨリ再審ノ訴ヲ爲スニハ其趣意書ニ原判決ノ謄本證憑書類ヲ添ヘ之ヲ原裁判所ニ差出シ直ニ上告裁判所ニ差出スニアラス而シテ右書類ハ原裁判所ノ檢事ヨリ上告裁判所へ送致ス可キナリ(三〇四)再審ノ訴ハ刑ノ消滅シタル後ト雖モ何時ニテモ之ヲ爲スコトヲ得但判決確定前ニ在テハ普通ノ上訴ヲ爲シ得可キヲ以テ再審ノ訴ヲ爲スコトヲ得ス(三〇三)

○第百廿三號 再審ノ訴ニ於テ爲スコキ判決如何(三〇七乃至三〇九)

第一 再審ノ原由ナキキ

再審ノ原由ナキキトハ法律ニ特定シタル原由ノ存セサルキ又ハ法律ニ再審ノ訴ヲ爲スコトヲ許シタル以外ノ人ヨリ提起シタルキヲ云フ此場合ハ再審ノ訴ヲ棄却ス可キナリ



第二 再審ノ理由アルキ

法律上再審ヲ許ス可キ理由ノ一アルキハ原判決ヲ破毀シ其事件ヲ原裁判所ト同等ナル他ノ裁判所ニ移ス是レ上告裁判所ハ事實ヲ調査スル裁判所ニ非サルヲ以テ唯原判決ニ錯誤アルコトヲ認ムルニ止ムルナリ而シテ其事件ノ移送ヲ受ケタル裁判所ニ於テハ普通ノ手續ニ從ヒ審判ヲ爲ス可キナリ

同一ノ事件ニ付共犯ニ非スシテ甲乙二人別ニ刑ノ言渡ヲ受ケタルキ甲ニ對シテハ第一審ノ判決確定シ乙ニ對シテハ第二審ノ判決確定シニケ共ニ再審ノ訴ニ因リ破毀セラレタルキハ何レノ裁判所ニ之ヲ移ス可キ乎嚴格ニ法文ヲ適用スルキハ甲ハ第一審裁判所ト同等ノ他ノ裁判所ニ乙ハ第二審裁判所ト同等ノ他ノ裁判所ニ移ス可キモ斯ル場合ニ各異リタル裁判所ニ於テ審判ヲ爲スキハ其裁判互

再審ニ因  
リ原判決  
ヲ破毀シ  
テ再審ハ  
タルキハ  
常ニ原判  
決ト同等  
ナル裁判  
所ニ移ス  
ハキ乎

ニ撞着シ再ヒ再審ノ訴ヲ爲サ、ル可カラサルヤ知ル可カラサルニ因リ予ハ便宜ノ爲メ其事件ハ共ニ第二審ノ裁判所ト同等ノ裁判所ニ移スヲ至當ナリト信ス

被告人死去ノ後再審ノ訴アリテ其原由アリトスルキハ上告裁判所ハ單ニ原判決ヲ破毀スルニ止マル是レ被告人既ニ死去シ審判ヲ受クル者在ラサルヲ以テナリ此場合ニ原判決破毀セラレタルキハ被告人ハ無罪潔白ノ身ヲ以テ死去シタルト同一ニ看做サル故ニ其者ノ名譽ノ爲メ其判決ヲ揭示シテ公告ス可キナリ蓋シ被告人ニ對スル賠償ノ一方法ト云フ可シ再審ノ訴ニ因リ無罪ノ判決アリタルキモ亦同一ナリ

○第百廿四號 非常上告ト再審ノ異同如何

非常上告ト再審トノ差異左ノ如シ



(二) 非常上告ハ法律適用ノ錯誤ヲ理由トシ再審ハ事實上ノ錯誤ヲ理由トシテ之ヲ爲スモノトス

(三) 非常上告ハ重罪輕罪違警罪ノ刑ノ言渡ニ對シ之ヲ爲スコトヲ得ルモ再審ハ重罪輕罪ノ刑ノ言渡ニ對スルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

(三) 非常上告ハ原判決カ上訴ノ道ヲ盡シ終リテ確定シタルキハ之ヲ爲スコトヲ得サルモ再審ハ如斯制限アルコト無し

(四) 非常上告ハ上告裁判所ノ檢事獨リ之ヲ爲ス可キモ再審ハ本案ノ第一審第二審上告審ノ檢事及被告人又ハ被告人ノ親族ヨリ之ヲ爲スコトヲ得

(五) 非常上告ハ其理由アルキハ上告裁判所ニ於テ原判決ヲ破毀シ而シテ原判決ノ認メタル事實ニ基キ直ニ判決ヲ爲ス可キモ再審ハ其理

由アルキハ上告裁判所ニ於テ原判決ヲ破毀シ更ニ原判決ヲ爲シタル裁判所ト同等ナル他ノ裁判所ニ其事件ヲ移シ審判ヲ爲サシムルナリ

非常上告ト再審ト同一ナル重ナル点ヲ擧クレハ二者共ニ確定判決ニ對スル上訴ナルト被告人ノ利益ノ爲メニスルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得サルトニ在リトス

第七編 大審院ノ特別權限ニ屬スル訴訟手續ノ部

○第百廿五號 大審院ノ特別權限ニ屬スル訴訟手續ノ概要ヲ述

ヘヨ

大審院ノ特別權限ニ屬スル事件トハ刑法第二編第一章皇室ニ對スル罪同第二章國事ニ關スル罪ノ重罪及皇族ノ犯シタル禁錮以上ノ刑ニ該當スル犯罪ナリトス蓋シ是等ノ犯罪ハ國家ノ治安休戚ニ關スル尤



モ大ナルヲ以テ最高ノ裁判所タル大審院ノ權限ニ屬セシメタリ今其  
 捜査起訴豫審公判ニ付規定スル特別ノ手續ヲ見ルニ左ノ如シ  
 捜査ノ手續 大審院ノ特別權限ニ屬スル事件ニ付テハ檢事總長捜査  
 ヲ爲ス可キモノトス地方裁判所區裁判所ノ檢事及司法警察官モ亦  
 其犯罪ニ付キ捜査ヲ爲シ檢事總長ニ報告ス可キナリ若シ現行犯ア  
 ルキハ是等ノ檢事及司法警察官ハ豫審判事ニ通知スルヲ無ク普通  
 現行犯ノ仮豫審ノ手續ニ從ヒ豫審處分ヲ爲シ地方裁判所ノ檢事ヨ  
 リ證憑書類ニ意見書ヲ添へ速ニ檢事總長ニ送致ス此仮豫審處分ヲ  
 爲スニ該リ豫審判事ニ通知スルヲ要セサルハ此事件ニ付テハ豫審  
 判事ハ自ラ豫審ヲ爲ス職權ナキニ因リ其通知ヲ爲ス要アラサルナ  
 リ(三二〇乃至三三)

起訴 檢事總長捜査ヲ終リ其事件大審院ノ特別權限ニ屬シ且起訴ス

可キモノト認メタルキハ豫審判事ヲ命ス可キヲ大審院長ニ請求  
 シ大審院長カ命シタル豫審判事ニ其事件ヲ送致シテ豫審ヲ請求ス  
 是レ即起訴ノ手續ナリ(三三)

豫審 大審院長ヨリ命セラレタル豫審判事ハ普通ノ手續ニテ豫審ヲ  
 爲シタル上他ニ取調ヲ要スルヲ無シト思料シタルキハ自ラ終結決  
 定ヲ爲スヲ無ク訴訟記録ニ意見ヲ付シ大審院ニ差出ス大審院ニ於  
 テハ檢事總長ノ意見ヲ聽キ其事件ヲ公判ニ付ス可キヤ否ヲ決定ス  
 公判ニ付ス可カラストスルキ即公訴ノ時效ヲ經過シタルキ大赦ア  
 リタルキ等ハ免訴ヲ爲シ地方裁判所又ハ區裁判所ノ權限ニ屬スル  
 事件ナリト決定シタルキハ管轄裁判所ヲ指定シ特別裁判所(軍事裁  
 判所ノ如キ)ノ權限ニ屬スルモノト認メタルキハ決定ヲ以テ管轄違  
 ヒノ言渡ヲ爲ス可キモノトス(三四、三五)



公判 公判ノ手續ハ一モ規定スル所ナシ故ニ普通ノ手續ニ從ヒ審判セサル可カラス公判ニ於テ其事件若シ地方裁判所又ハ區裁判所ノ權限ニ屬スルモノト認メタルキハ管轄違ノ言渡ヲ爲スヘキヤ否ニ付彼ノ有名ナル湖南事件ノ起リタル際議論セシ所ナリ予ハ確信ス第三百十六條ニ依リ第二百四十條ヲ引援シテ管轄違ノ言渡ヲ爲スヲ無ク直ニ相當ノ判決ヲ爲ス可キナリト而シテ湖南事件ノ大審院ノ判決モ茲ニ出テタリキ

### 第八編 裁判執行及復權特赦ノ部

○第百廿六號 裁判執行ヲ爲ス可キ時、人ヲ説示セヨ  
裁判ノ執行ハ其裁判ノ確定ノ後直ニ之ヲ爲スヲ以テ原則トス然レモ左ノ二ケノ場合ハ例外ニ屬ス(三七、三九)  
(一) 裁判ノ確定ヲ俟タスシテ直ニ執行ス可キモノ

豫審終結決定ヲ以テ保釋責付ノ言渡ヲ取消シタルトキ(二五、但書)第二審ニ於テ勾留又ハ放免ノ言渡ヲ爲シタルキ(二五)是ナリ  
(三) 裁判確定スルモ直ニ執行ス可カラサルモノ

死刑ハ其言渡確定スルモ司法大臣ノ命令アルニ非サレハ之ヲ執行ス可カラサルヲ以テ檢事ヨリ速ニ訴訟記録ヲ司法大臣ニ差出シ其命令ヲ乞ヒ許可アリタルキハ三日内ニ執行ヲ爲サ、ル可カラス  
罰金科料ニ付テモ直ニ執行スルヲ許サス罰金ハ裁判確定ノ日ヨリ三十日内ニ納完セシメ若シ期限内ニ納完セサルキハ一圓ヲ一日ニ折算シテ之ヲ輕禁錮ニ換フ科料ニ付テハ裁判確定ヨリ十日内ニ納完セシメ若シ期限内ニ納完セサルキハ罰金ノ例ニ徇ヒ拘留ニ換フ可キナリ(三八)(刑法第二十七條第三十條)

刑ノ執行ハ裁判確定後直ニ之ヲ爲スヲ要スルモ被告人若シ逃走シテ



刑ノ執行ヲ遵レタルルル又ハ闕席判決ニ係ルルハ如何ニス可キ乎此場  
 合ニハ檢事ハ逮捕狀ヲ發シ被告人ヲ逮捕シタル上之カ執行ヲ爲ス可  
 キナリ而シテ此逮捕狀ハ勾留狀ト同一ノ效力ヲ有スルモノトス(三九)  
 刑ノ執行ハ其刑ヲ言渡シタル裁判所ノ檢事又ハ上告裁判所ヨリ命ヲ  
 受ケタル裁判所ノ檢事上告ノ場合ハ被告人出頭セサルヲ以テ上告裁  
 判所ニ於テ刑ノ言渡ヲ爲スルハ上告裁判所ノ檢事ハ被告人所在地ノ  
 裁判所ノ檢事ニ刑ノ執行ヲ命スノ指揮ニ因リ執行ス可キナリ即休刑  
 ニ付テハ司獄官ニ命シ之ヲ執行セシメ訴訟費用、沒收物品、追徴金等ニ  
 付キ強制執行ヲ要スルルルハ執達吏ヲシテ之カ執行ヲ爲サシム而シテ破  
 壞若クハ廢棄ス可キ沒收品ハ檢事之ヲ處分ス(三〇)  
 檢事ハ刑ノ執行ニ付キ總テ指揮權ヲ有スルモ若シ刑ノ言渡ヲ受ケタ  
 ル者ヨリ其言渡ニ付疑義ノ申立(刑ノ言渡條件ニ疑義アルルル釋明ノ申

立アルルル)又ハ其執行ニ付キ異議ノ申立(執行方法カ制規ニ違反スル旨  
 申立ツルノ類)ヲ爲シタルルルハ之ヲ裁判スル能力ナキヲ以テ其刑ノ言  
 渡ヲ爲シタル裁判所ニ於テ之ヲ決定ス可キナリ此決定ニ對シテハ抗  
 告ヲ爲スコトヲ得(三三)

○第百廿七號 復權願ニ關スル手續ヲ述ヘヨ

復權ノ願ハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ヨリ主刑滿期ノ日ヨリ五年經過後  
 司法大臣ニ宛テタル願書ヲ現ニ住スル地ノ地方裁判所檢事ニ差出ス  
 而シテ其願書ニハ左ノ書類ヲ添付ス可キナリ(三四、三五)

第一 判決ノ正本

公權剝奪ノ基本タル可キ判決ノ正本ヲ添フルハ當然ナリ

第二 主刑ノ滿期ハ特赦ト爲リ又ハ時効ノ成就シタルコトヲ證明スル書類

主刑ノ終ハリテヨリ五年ヲ經過シタルコトヲ證明スルニ尤モ必



要ナルモノナリ

第三 假出獄及假ニ監視ヲ免セラレタル證書

是等ノ證書ヲ添フルルキハ受刑者ハ改過遷善ノ實アルト品行ノ端正ナルトヲ證明スルニ大ニカアルモノトス

第四 賠償及ヒ訴訟費用ヲ辨濟シ又ハ其義務ヲ免レタル證書

民事上ノ義務ヲモ完済シタレハ最早ヤ公權ヲ回復スルモ公益ニ觸レサルトヲ證スルナリ

第五 過去現在ノ住所及生計ヲ記載スル書類

受刑者ノ品行生計等ヲ調査シ復權ノ要否ヲ勘査スルニ必要アルモノトス

地方裁判所ノ檢事復權願書ヲ受取リタルキハ願人ノ品行及添付書類ノ正否其他必要ノ取調ヲ爲シ意見書ヲ添へ之ヲ檢事長ニ差出ス(三三六)

檢事長モ亦必要ノ取調ヲ爲シ意見書ヲ添へ之レヲ司法大臣ニ差出ス

(三七)司法大臣ハ書類ヲ檢閲シ意見書ヲ添へ速ニ上奏ス可キナリ(三八)

勅裁ニ依リ復權願ヲ却下セラレタルキハ司法大臣ヨリ其旨ヲ檢事長

ニ通知シ檢事長ハ願書ヲ差出シタル地方裁判所檢事ニ通知シ其通知

ヲ受ケタル檢事ハ更ニ願人ニ通知スルヲ要スルナリ(三九、二項)又復權

願裁可アリタルキハ司法大臣ヨリ裁可狀ヲ前同一ノ順序ニテ地方裁

判所ノ檢事ニ送致シ同檢事ハ其謄本ヲ願人ニ下付シ且其謄本ヲ刑ノ

言渡ヲ爲シタル裁判所ニ送致シ其裁判所ハ之ヲ判決原本ニ記入ス可

キナリ(三〇)

復權願却下セラレ更ニ之カ願ヲ爲スニハ前期間ノ半即五年ノ半數二

年六ヶ月ヲ經タルニ非サレハ之ヲ許サス而シテ再ヒ復權願ヲ爲ス手

續ハ前ト同一ナリ(三九、二、三)



○第百廿八號 特赦ヲ申立ツヘキ時、人及其手續ヲ述ヘ且其申立  
ノ效力ヲ説明セヨ

特赦ヲ申立ヘキ時期

刑ノ言渡確定シタル後ニ係ルキハ何時ニテモ之ヲ申立ツルコトヲ得  
特赦ヲ申立ツヘキ人

特赦ノ申立ヲ爲スコトヲ得可キ者ハ司法大臣、刑ノ言渡ヲ爲シタル裁  
判所ノ檢事、監獄署長ナリ

特赦申立ノ手續

司法大臣ノ申立ニ係ルキハ直ニ上奏シテ勅裁ヲ仰キ、檢事ノ申立ニ  
係ルキハ其申立書ヲ司法大臣ニ差出シ、司法大臣ハ意見書ヲ添ヘ上  
奏、勅裁ヲ仰ク、監獄署長ノ申立ニ係ルキハ其申立書ヲ檢事ニ差出シ  
檢事ハ意見書ヲ添ヘ司法大臣ニ差出ス可キナリ

特赦ノ申立却下セラレタルキハ司法大臣ヨリ前ノ檢事ニ通知シ裁  
可アリタルキハ同檢事ニ特赦狀ヲ送致ス、檢事ハ特赦狀ノ謄本ヲ受  
刑者ニ下付シ且其謄本ヲ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ニ送致ス、其裁  
判所ハ之ヲ判決原本ニ記入ス(三三二乃至三三四)

特赦申立ノ效力

特赦申立ニ因リ其裁判ノ執行ヲ停止セス然レモ死刑ニ限り之ヲ停  
止ス可キモノトス蓋シ死刑ハ補償回復ス可カラサル刑ナレハナリ

(三三二)



明治三十年八月一日印刷  
明治三十年八月五日發行



著者

村瀨孝文

三重縣津市大字中新町十五番屋敷

發行者

鈴木敬親

東京市神田區裏神保町七番地

發行者

豐住謹次郎

三重縣津市地頭領町十九番屋敷

印刷者

松田猪之助

三重縣一志郡久居町大字本町  
三百四十八番屋敷

發行所

八尾商店

東京銀坐四丁目

發行所

吉岡平助

大坂備后町四丁目

定價金五拾錢



